

男女共同参画市民意識調査

結果報告書



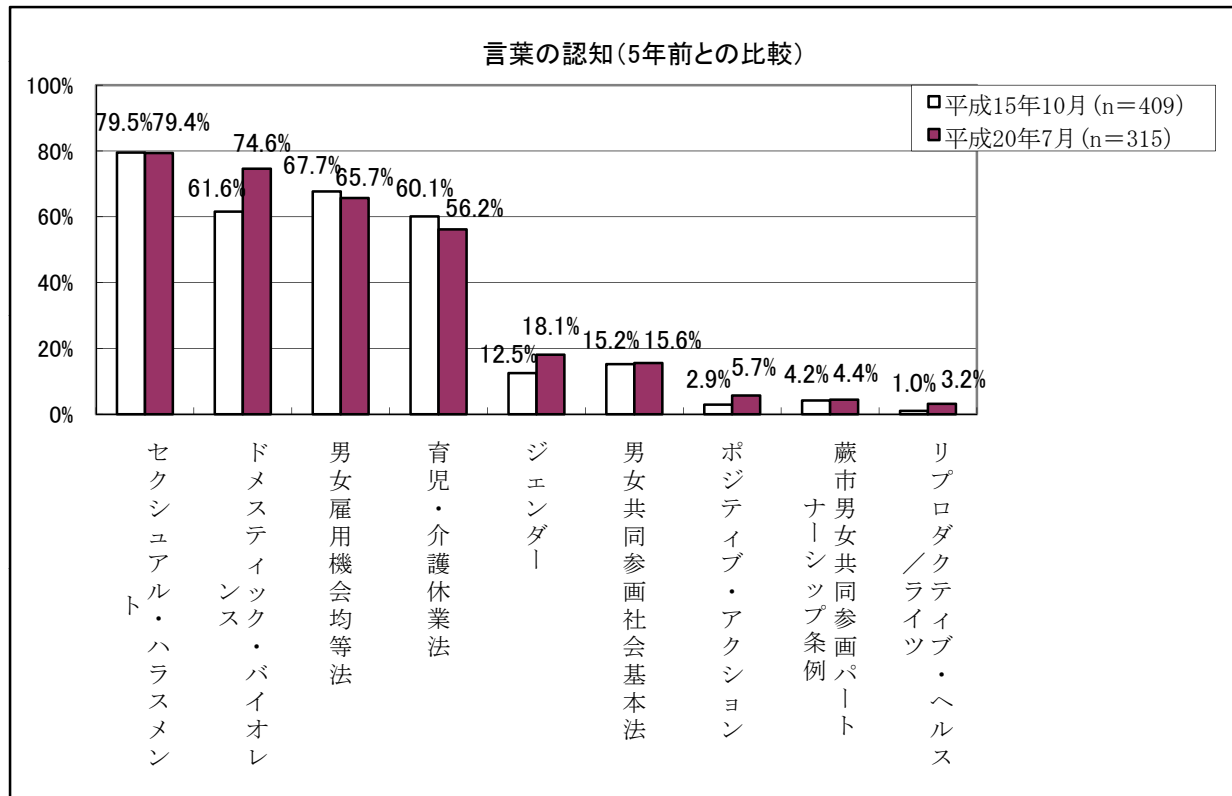
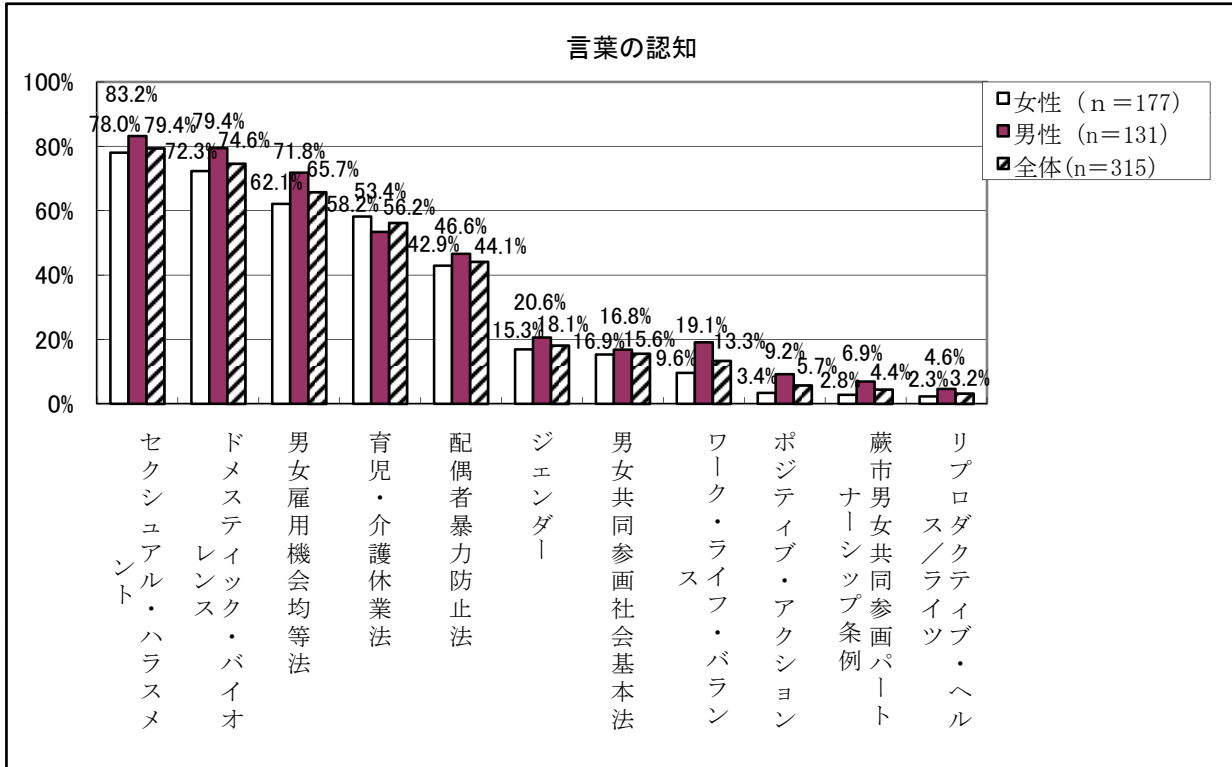
平成21年1月

藤 市

【調査結果】

1 意識

問1 あなたは、男女平等社会に向けた取り組みに関わる次の事柄や言葉をご存知ですか。



男女共同参画社会基本法

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
言葉も内容も知っている	15.6%	15.3%	16.8%
聞いたことがある	36.5%	39.0%	33.6%
知らない	46.0%	44.1%	48.1%
無回答	1.9%	1.7%	1.5%

男女雇用機会均等法

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
言葉も内容も知っている	65.7%	62.1%	71.8%
聞いたことがある	25.1%	28.2%	22.1%
知らない	7.3%	8.5%	4.6%
無回答	1.9%	1.1%	1.5%

配偶者暴力防止法

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
言葉も内容も知っている	44.1%	42.9%	46.6%
聞いたことがある	43.5%	45.2%	41.2%
知らない	10.8%	11.3%	9.9%
無回答	1.6%	0.6%	2.3%

ドメスティック・バイオレンス

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
言葉も内容も知っている	74.6%	72.3%	79.4%
聞いたことがある	14.9%	16.9%	12.2%
知らない	8.3%	9.6%	5.3%
無回答	2.2%	1.1%	3.1%

蕨市男女共同参画パートナーシップ条例

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
言葉も内容も知っている	4.4%	2.8%	6.9%
聞いたことがある	17.1%	20.3%	13.0%
知らない	75.6%	75.1%	77.1%
無回答	2.9%	1.7%	3.1%

育児・介護休業法

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
言葉も内容も知っている	56.2%	58.2%	53.4%
聞いたことがある	32.4%	31.6%	35.1%
知らない	8.9%	9.6%	7.6%
無回答	2.5%	0.6%	3.8%

セクシュアル・ハラスメント

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
言葉も内容も知っている	79.4%	78.0%	83.2%
聞いたことがある	11.4%	11.9%	10.7%
知らない	7.3%	8.5%	4.6%
無回答	1.9%	1.7%	1.5%

ジェンダー

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
言葉も内容も知っている	18.1%	16.9%	20.6%
聞いたことがある	15.6%	13.6%	18.3%
知らない	63.5%	67.2%	58.8%
無回答	2.9%	2.3%	2.3%

リプロダクティブ・ヘルス／ライツ

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
言葉も内容も知っている	3.2%	2.3%	4.6%
聞いたことがある	7.3%	6.2%	9.2%
知らない	86.0%	88.7%	83.2%
無回答	3.5%	2.8%	3.1%

ポジティブ・アクション(積極的格差是正措置)

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
言葉も内容も知っている	5.7%	3.4%	9.2%
聞いたことがある	18.7%	19.2%	17.6%
知らない	73.0%	75.1%	71.8%
無回答	2.5%	2.3%	1.5%

ワーク・ライフ・バランス

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
言葉も内容も知っている	13.3%	9.6%	19.1%
聞いたことがある	26.0%	26.0%	26.7%
知らない	58.4%	62.7%	52.7%
無回答	2.2%	1.7%	1.5%

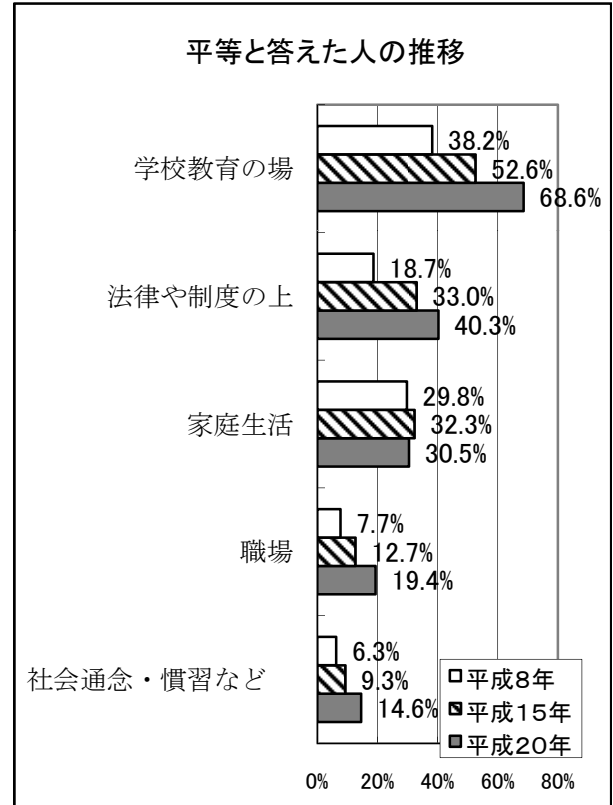
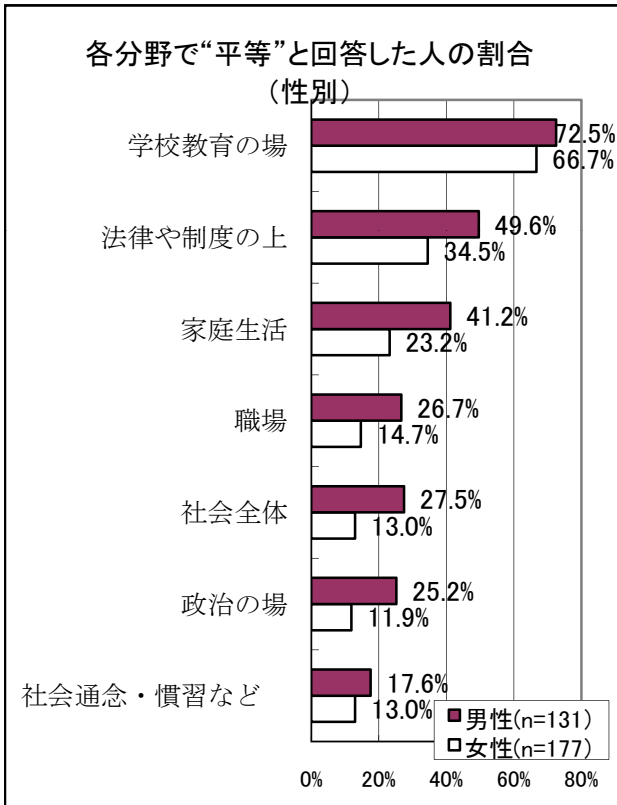
男女共同参画に関する言葉について、“言葉の意味も内容も知っている”と最も多く回答があった言葉は「セクシュアル・ハラスメント」で、全体で79.4%でした。次いで「ドメスティック・バイオレンス」74.6%、「男女雇用機会均等法」が65.7%となっています。

また“知らない”との回答は「リプロダクティブ・ヘルス・ライツ」が86%、「蕨市男女共同参画パートナーシップ条例」が75.6%、「ポジティブ・アクション」が73%となっています。

男女別で見ると、「育児・介護休業法」は女性の方の認知が高く“言葉の意味も内容も知っている”は58.2%で、男性の53.4%よりも4.8ポイント高い結果となりました。またそれ以外の言葉はいずれも男性の方が高くなっています。

平成15年に行った「市民意識調査」結果と比較してみると、「ドメスティック・バイオレンス」が61.6%から74.6%と13ポイント上昇しました。

問2 あなたは、今からあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。



学校教育の場

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
男性の方が非常に優遇	4.1%	5.6%	2.3%
どちらかといえば男性	19.0%	20.3%	17.6%
平等	68.6%	66.7%	72.5%
どちらかといえば女性	2.2%	1.7%	3.1%
女性の方が非常に優遇	0.6%	0.0%	1.5%
無回答	5.4%	5.6%	3.1%

法律や制度の上

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
男性の方が非常に優遇	14.9%	20.9%	6.9%
どちらかといえば男性	34.3%	36.2%	32.1%
平等	40.3%	34.5%	49.6%
どちらかといえば女性	4.4%	3.4%	6.1%
女性の方が非常に優遇	1.0%	0.0%	2.3%
無回答	5.1%	5.1%	3.1%

家庭生活

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
男性の方が非常に優遇	11.1%	16.4%	4.6%
どちらかといえば男性	46.3%	51.4%	40.5%
平等	30.5%	23.2%	41.2%
どちらかといえば女性	7.6%	5.6%	9.2%
女性の方が非常に優遇	2.5%	2.3%	3.1%
無回答	1.9%	1.1%	1.5%

職場

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
男性の方が非常に優遇	23.8%	31.1%	14.5%
どちらかといえば男性	49.8%	49.2%	51.1%
平等	19.4%	14.7%	26.7%
どちらかといえば女性	1.9%	1.1%	3.1%
女性の方が非常に優遇	0.6%	0.0%	1.5%
無回答	4.4%	4.0%	3.1%

社会全体

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
男性の方が非常に優遇	17.1%	23.2%	9.9%
どちらかといえば男性	57.5%	59.9%	55.7%
平等	19.0%	13.0%	27.5%
どちらかといえば女性	2.2%	1.1%	3.8%
女性の方が非常に優遇	0.3%	0.0%	0.8%
無回答	3.8%	2.8%	2.3%

政治の場

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
男性の方が非常に優遇	35.9%	42.4%	27.5%
どちらかといえば男性	42.9%	42.9%	43.5%
平等	17.1%	11.9%	25.2%
どちらかといえば女性	0.6%	0.0%	1.5%
女性の方が非常に優遇	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	3.5%	2.8%	2.3%

社会通念・慣習・しきたりなど

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
男性の方が非常に優遇	27.6%	36.2%	16.8%
どちらかといえば男性	51.4%	46.9%	58.0%
平等	14.6%	13.0%	17.6%
どちらかといえば女性	1.9%	0.0%	4.6%
女性の方が非常に優遇	0.3%	0.0%	0.8%
無回答	4.1%	4.0%	2.3%

各分野で男女平等になっているか、聞いてみたところ“平等”と答えた人の割合が最も高くなったところは「学校教育の場」で68.6%、次いで「法律や制度の上」で40.3%となっています。

また“男性の方が非常に優遇されている”は「政治の場」で35.9%、「社会通念・慣習・しきたりなど」が27.6%、「職場」23.8%となっています。

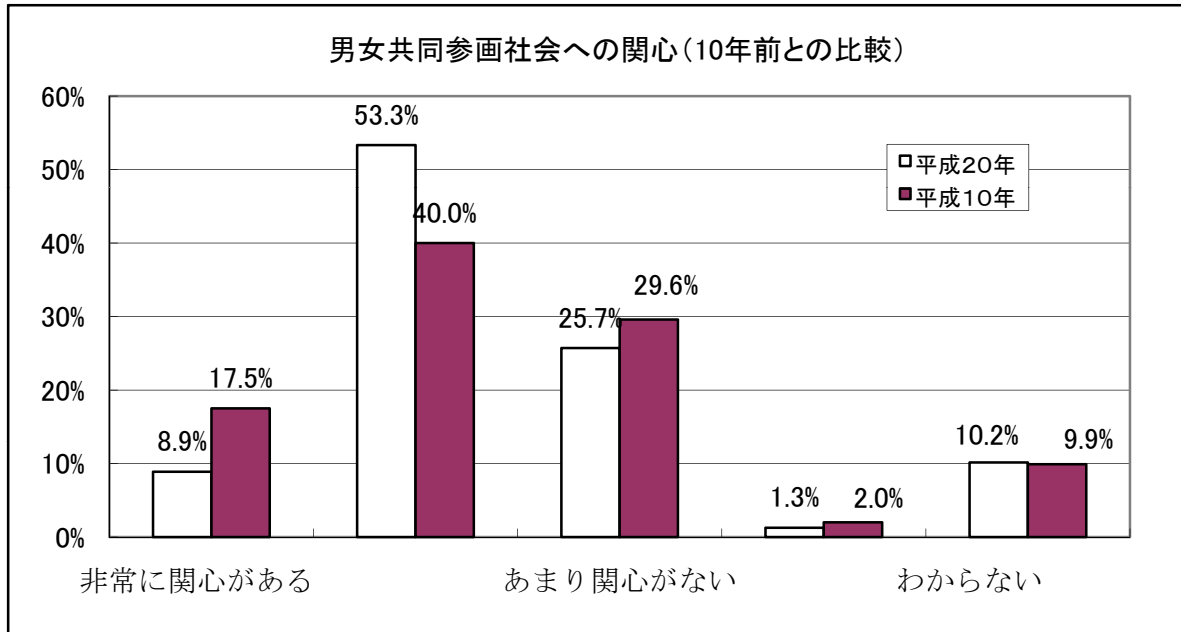
“男性の方が非常に優遇されている”と“どちらかといえば男性のほうが優遇されている”の割合を合計して“男性の方が優遇”と回答した割合は「社会通念・慣習・しきたりなど」が最も高く79%、次いで「政治の場」が78.8%、「社会全体」が74.6%、「職場」が73.8%となっています。

“平等”と回答した人の割合はどの分野も男性の方が高い割合となっていますが、「学校教育の場」が男女ともに高く、女性で66.7%、男性で72.5%となっています。特に「家庭生活」の分野では、男性では41.2%が“平等”と答えているのに、女性は23.2%にとどまり、その差は18ポイントあります。同様に「法律・制度の上」でも男性は49.6%が“平等”と答えていますが、女性では34.5%でその差は15.1ポイントとなっています。

平成8年、平成15年と今回の調査を比較してみると、「家庭生活」を除く、各分野で平等感は高くなってきています。特に「学校教育の場」では、平成8年に38.2%、平成15年に52.6%であったものが、68.6%と上昇しました。同じく「法律制度の上」でも平成8年に18.7%であったものが、40.3%と高くなりました。

しかし「家庭生活」の分野では、平成15年調査で32.3%であったものが、今回の調査では30.5%と1.8ポイント下回りました。

問3 男女共同参画社会とは、女性も男性も自分の意思で社会に主体的にかかわり喜びも責任も分かち合う社会のことです。あなたは男女共同参画社会づくりについて、どの程度関心がありますか。



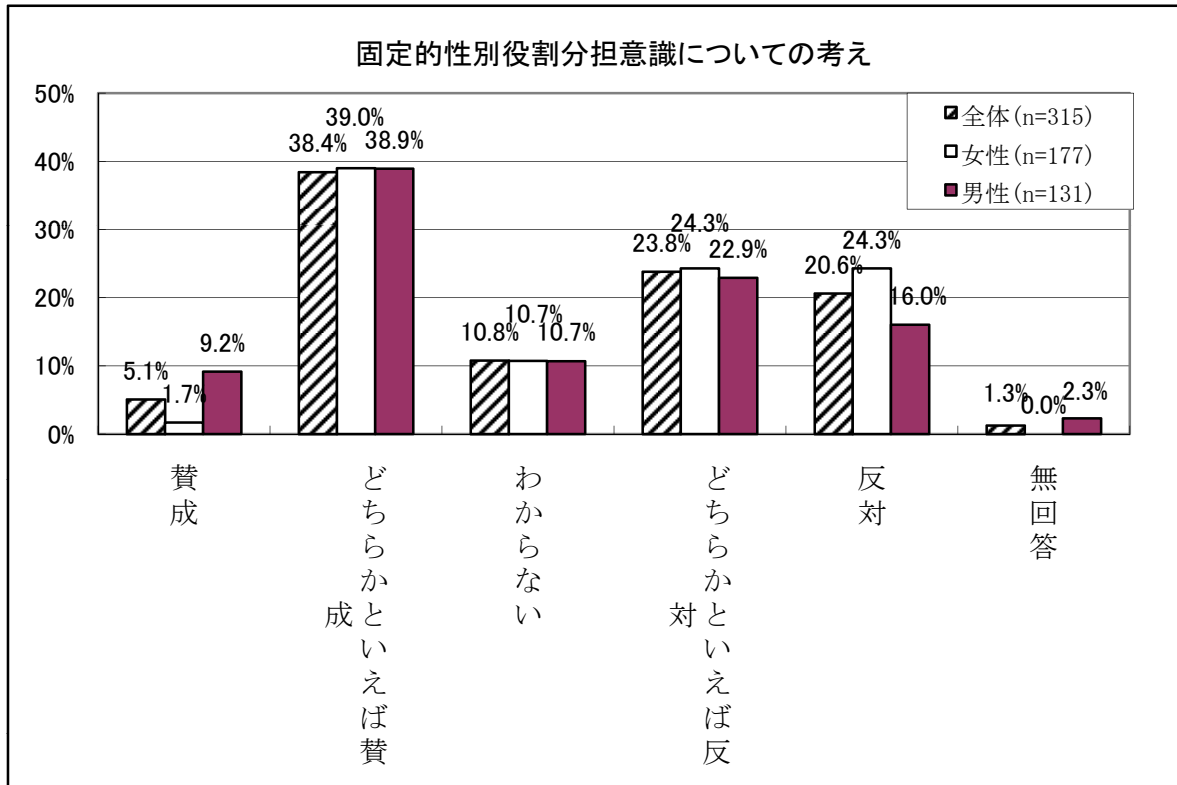
	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
非常に興味がある	8.9%	7.3%	9.9%
やや興味がある	53.3%	55.9%	50.4%
あまり関心がない	25.7%	24.9%	28.2%
まったく関心がない	1.3%	0.0%	3.1%
わからない	10.2%	11.9%	7.6%
無回答	0.6%	0.0%	0.8%

男女共同参画社会への関心は、“非常に興味がある”が8.9%、“やや興味がある”が53.3%、“あまり関心がない”が25.7%、“まったく関心がない”が1.3%、“わからない”が10.2%となっています。

男女別にみると“非常に興味がある”が女性は7.3%、男性は9.9%で、“やや興味がある”を加えると女性では63.2%、男性で60.3%が関心を寄せています。また“わからない”との回答は女性で11.9%、男性で7.6%となっています。

平成10年の調査と比較すると“非常に興味がある”が17.5%から8.9%と8.6ポイント減ったものの、“やや興味がある”が40%から53.3%と13.3ポイント増加しました。

問4「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方がありますが、あなたはこのことについてどのように思いますか？（〇は1つ）



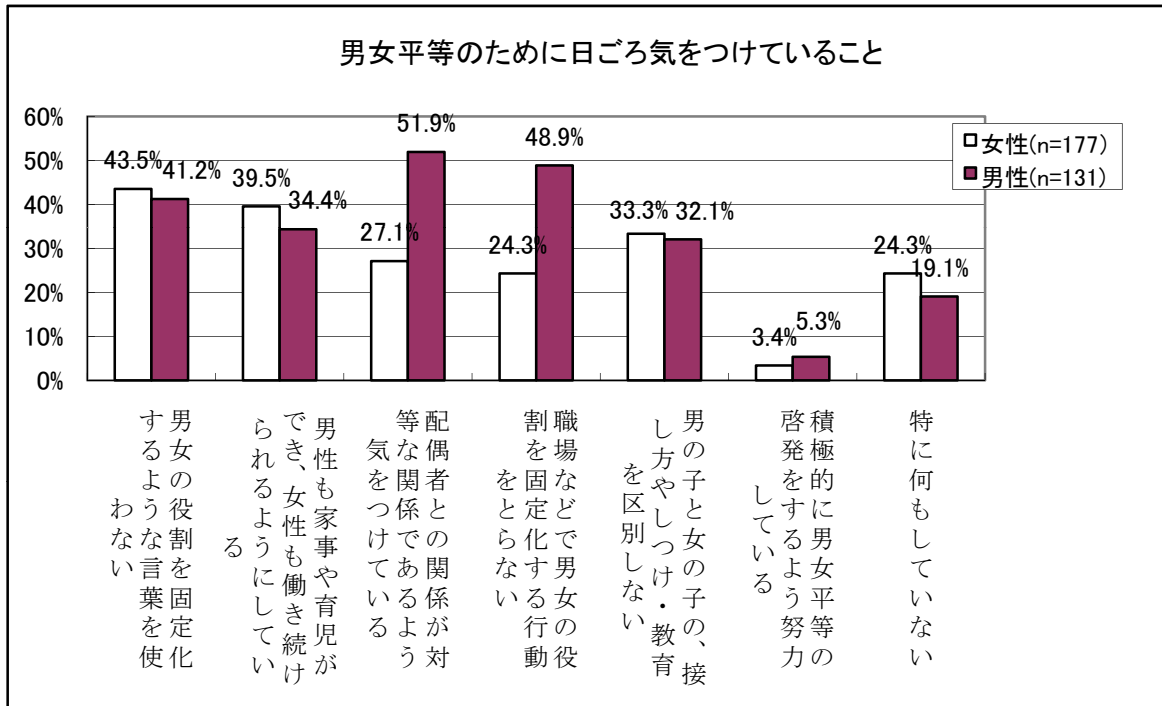
	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
賛成	5.1%	1.7%	9.2%
どちらかといえば賛成	38.4%	39.0%	38.9%
わからない	10.8%	10.7%	10.7%
どちらかといえば反対	23.8%	24.3%	22.9%
反対	20.6%	24.3%	16.0%
無回答	1.3%	0.0%	2.3%

「夫は仕事、妻は家庭」という固定的性別役割分担意識について、「賛成」と回答したのは5.1%、「どちらかといえば賛成」が38.4%、「反対」は20.6%、「どちらかといえば反対」が23.8%となっています。

男女別では、「賛成」に男性が9.2%で、女性の1.7%に比べて7.5ポイント多くなっています。「どちらかといえば賛成」も加えると、男性では48.1%が、女性では40.7%が賛成となっています。また「反対」は女性が24.3%で、男性は16%で女性の方が8.3ポイント多く、「どちらかといえば反対」を加えると、女性では48.6%が、男性では38.9%が反対となっています。

この結果から男性は「賛成」が48.1%で、「反対」の38.9%より9.2ポイント上回り、また女性は「反対」が48.6%で、「賛成」の40.7%より7.9ポイント上回っています。このことから固定的性別役割分担意識は男性の方が賛成し、女性の方が反対する傾向にあることがわかります。

問5 男女平等を進めるためには、一人ひとりの努力が必要です。あなた自身が男女平等を進めるために日ごろ気をつけていることはありますか（〇は当てはまるものすべて）



	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
男女の役割を固定化するような言葉を使わない	42.5%	43.5%	41.2%
男性も家事や育児ができ、女性も働き続けられるようにしている	37.8%	39.5%	34.4%
配偶者との関係が対等な関係であるよう気をつけている	37.1%	27.1%	51.9%
職場などで男女の役割を固定化する行動をとらない	34.0%	24.3%	48.9%
男の子と女の子の、接し方やしつけ・教育を区別しない	32.4%	33.3%	32.1%
積極的に男女平等の啓発をするよう努力している	4.1%	3.4%	5.3%
その他	3.8%	4.0%	3.8%
特に何もしていない	21.9%	24.3%	19.1%
無回答	2.2%	2.3%	0.8%

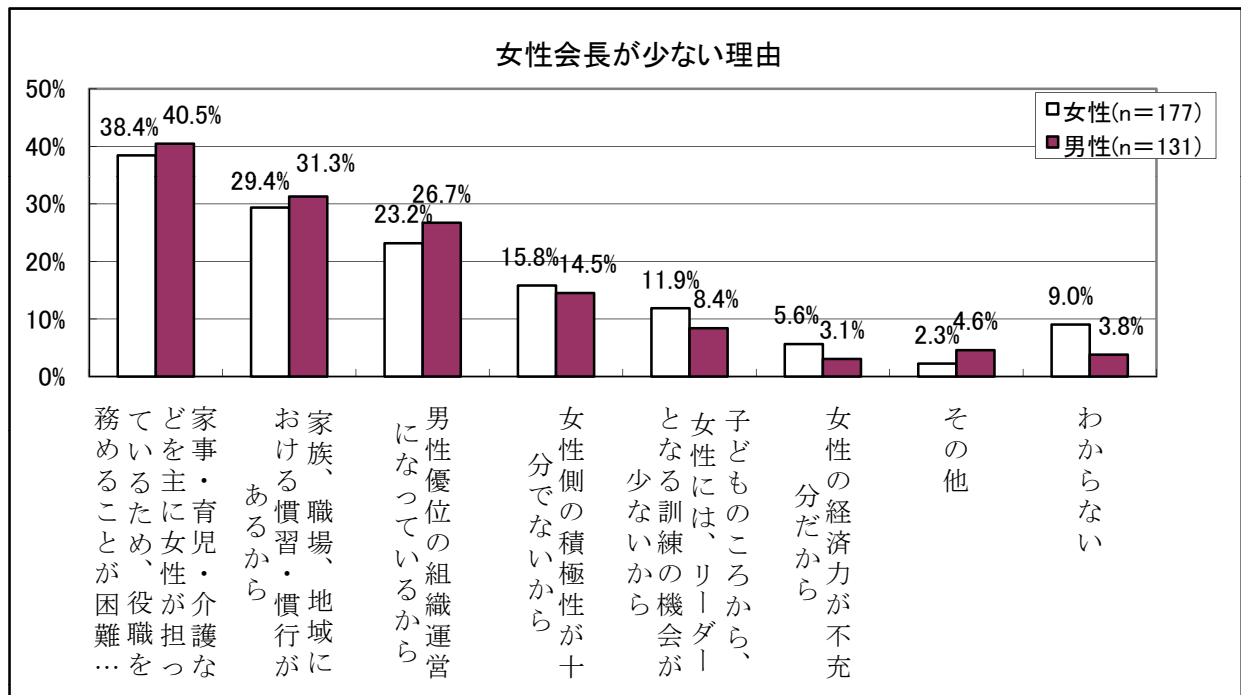
男女平等を進めるために、日ごろ気をつけていることは、「“女のくせに” “男らしく” など男女の役割を固定化するような言葉を使わない」が最も多く42.5%で、次いで「男性も家事や育児ができ、女性も働き続けられるようにしている」が37.8%、「配偶者との関係が対等な関係であるように気をつけている」が37.1%、「職場などで“お茶汲みは女性”とするなど、男女の役割を固定化する行動を取らない」が34%となっています。

男女別では「配偶者との関係が対等な関係であるように気をつけている」が男性で51.9%、女性では27.1%と24.8ポイント、「職場などで“お茶くみは女性”とするなど男女の役割を固定化する行動をこらない」の項目も男性は48.9%、女性は24.3%で24.6ポイントの開きがあり、男女平等についての取り組みが男女によって違いが見られました。

また「特に何もしていない」との回答は、女性に多く24.3%が、男性でも19.1%となっています。

2 地域

問6 町会長やPTA会長や地域リーダーなど「～長」という役職に女性が少ない傾向にあります。あなたはどのような理由からだと思いますか。(〇は1つ) (注) 複数回答で集計



	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
家事・育児・介護などを主に女性が担っているため、役職を務めることが困難だから	39.0%	38.4%	40.5%
家族、職場、地域における慣習・慣行があるから	29.8%	29.4%	31.3%
男性優位の組織運営になっているから	24.4%	23.2%	26.7%
女性側の積極性が十分でないから	15.6%	15.8%	14.5%
子どもの頃から、女性には、リーダーとなる訓練の機会が少ないから	10.2%	11.9%	8.4%
女性の経済力が不十分だから	4.4%	5.6%	3.1%
その他	3.5%	2.3%	4.6%
わからない	7.0%	9.0%	3.8%
無回答	1.6%	0.6%	1.5%

会長職に女性が少ない理由について、最も多い回答は「家事・育児・介護などを主に女性が担っているため、役職を務めることが困難だから」で39%、次いで「家族、職場、地域における慣習・慣行があるから」が29.8%、「男性優位の組織運営になっているから」が24.4%となっています。

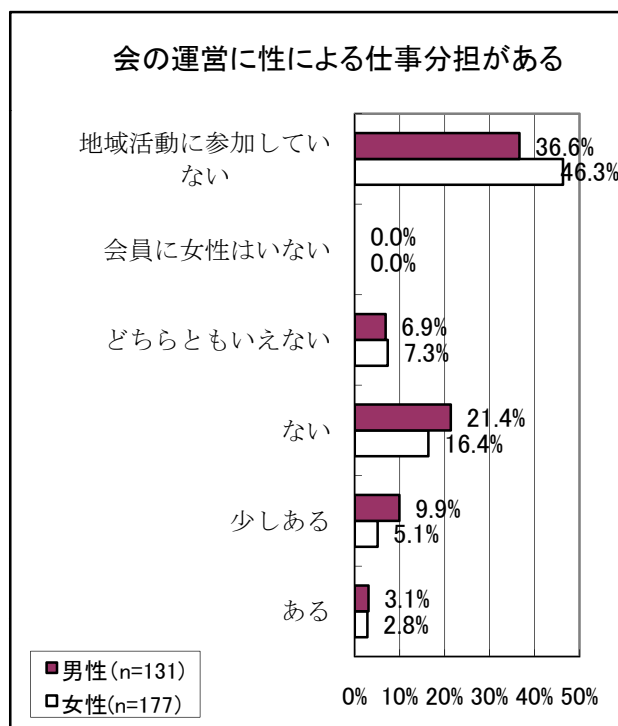
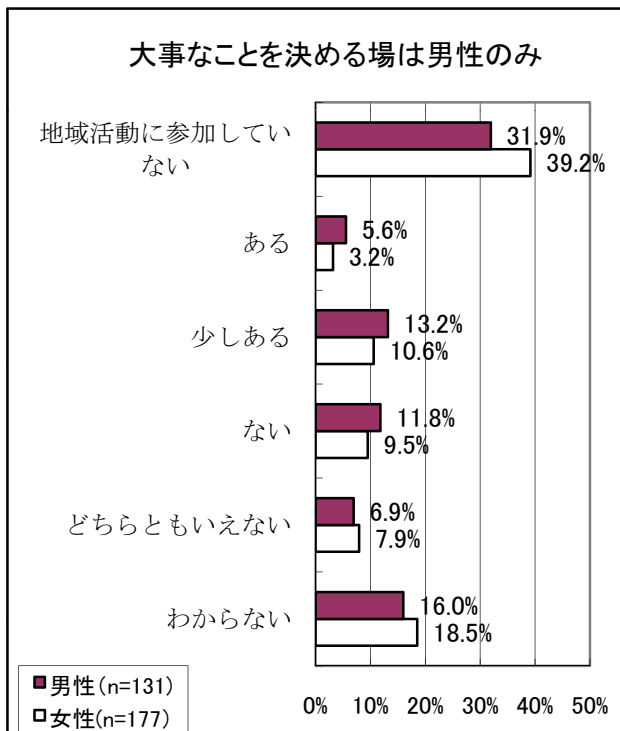
男女別にみると、男性に「家事・育児・介護などを主に女性が担っているため、困難」(男性40.5%、女性38.4%)や「家族、職場、地域における慣習・慣行があるから」(男性31.3%、女性29.4%)、「男性優位の組織運営になっているから」(男性26.7%、女性23.2%)が高く、女性では「女性側の積極性が十分でないから」(女性15.8%、男性14.5%)や「子どもの頃から、女性にはリーダーとなる訓練の機会が少ないから」(女性11.9%、男性8.4%)が男性よりも高くなっています。

また「わからない」と答えた人も、全体で7%、女性で9%、男性で3.8%ありました。

問7 地域活動について伺います。あなたが参加している町会などの地域活動団体の運営について次のような事柄がありますか。（○は1つ）

a. 会の大事なことを決める場（役員会など）は男性のみで構成されている

b. 会の運営において、男性は中心的な業務で女性は庶務というような性によつての仕事分担がある



a. 大事なことを決める場は男性のみ

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
ある	2.9%	2.8%	3.1%
少しある	7.0%	5.1%	9.9%
ない	18.4%	16.4%	21.4%
どちらともいえない	7.3%	7.3%	6.9%
会員に女性はいない	0.0%	0.0%	0.0%
わからない	18.4%	20.3%	16.8%
地域活動に参加していない	41.9%	46.3%	36.6%
無回答	4.1%	1.7%	5.3%

b. 会の運営に性による仕事分担がある

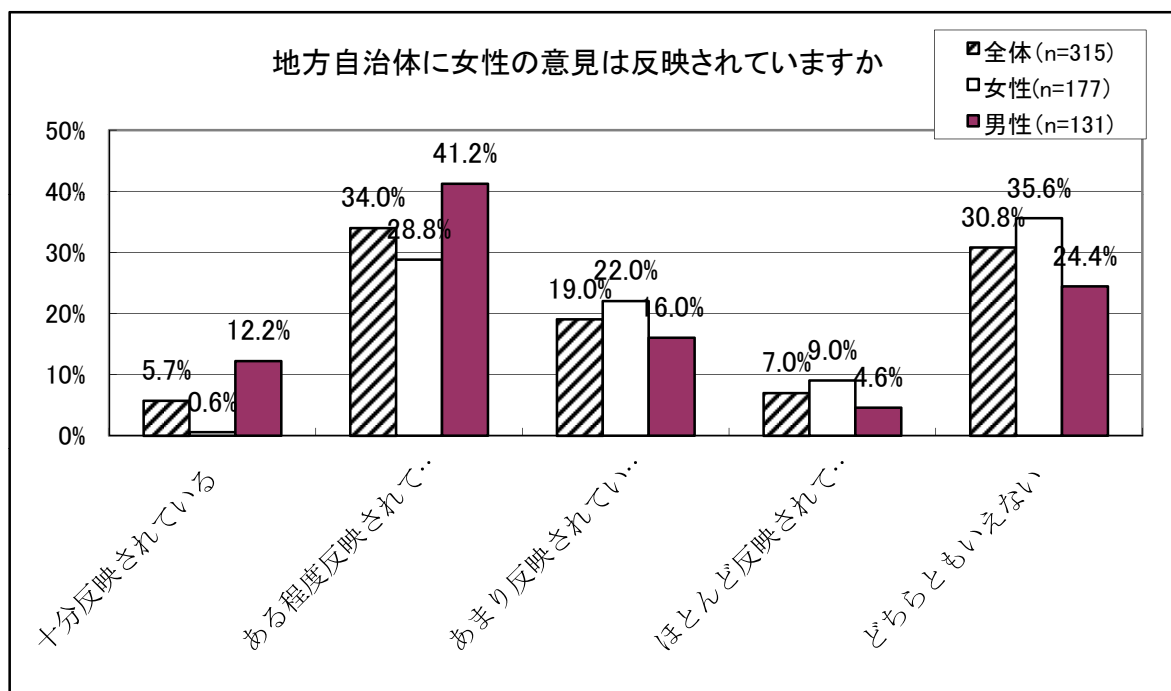
	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
ある	5.4%	3.2%	5.6%
少しある	13.0%	10.6%	13.2%
ない	11.1%	9.5%	11.8%
どちらともいえない	7.9%	7.9%	6.9%
会員に女性はいない	0.0%	0.0%	0.0%
わからない	18.4%	18.5%	16.0%
地域活動に参加していない	38.7%	39.2%	31.9%
無回答	5.4%	11.1%	14.6%

会の大事なことを決める場が男性のみで構成されているかについて、「ある」との回答は2.9%、「少しある」が7.0%となっています。「ある」と「少しある」の回答を加算したものを男女別で見ると、男性は13%、女性は8%となっています。

また、会の運営が男性が中心で、女性は庶務というように、性による仕事分担があるかについて、「ある」が5.4%、「少しある」が13.0%となっています。「ある」と「少しある」を加算して男女別にみると、男性では18.8%、女性では13.8%となっています。

3 政策・方針決定の場

問8 あなたは、地方自治体（県や市）などの施策について、女性の意見や考え方がどの程度



	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
十分に反映されている	5.7%	0.6%	12.2%
ある程度反映されている	34.0%	28.8%	41.2%
あまり反映されていない	19.0%	22.0%	16.0%
ほとんど反映されていない	7.0%	9.0%	4.6%
どちらともいえない	30.8%	35.6%	24.4%
無回答	3.5%	4.0%	1.5%

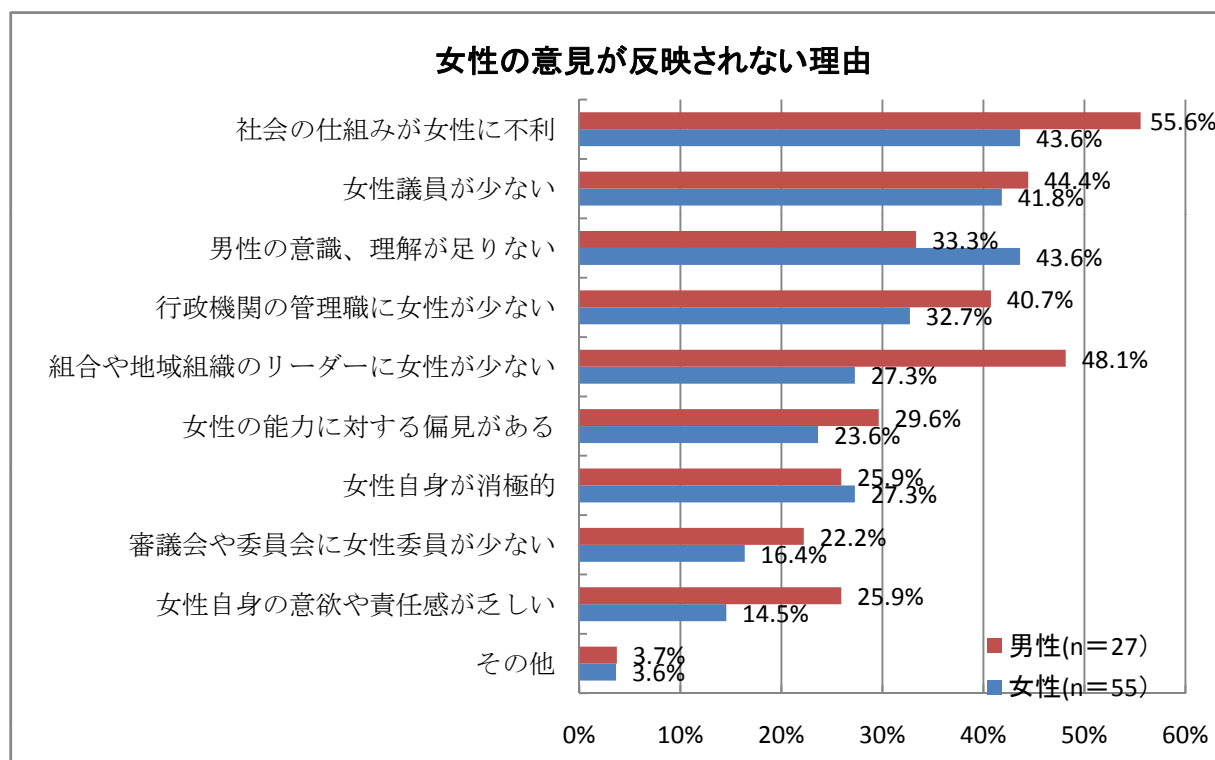
地方自治体の施策に女性の意見などが反映されているかについて、「ある程度反映されている」は34%で最も多く、次いで「どちらともいえない」30.8%、「あまり反映されていない」19%、「ほとんど反映されていない」7%となっています。

男女別では「ある程度反映されている」は男性で41.2%、女性では28.8%で「十分に反映されている」の男性12.2%、女性0.6%の割合を加えると、男性では53.4%と過半数を超える割合が反映されていると答えているのに対して、女性は29.4%にとどまりました。一方で「あまり反映されていない」の回答は、女性22%、男性16%で、「ほとんど反映されていない」の女性7%、男性9%を加えると、女性では31%、男性では20.6%で10.4ポイントの開きがありました。

また女性では「どちらともいえない」が一番多く35.6%を占め、男性の24.4%と11.2ポイントの開きがありました。

前問で「あまり反映されていない」または「ほとんど反映されていない」と答えた方に

問8-1 反映されていない理由は何だと思えますか（〇は3つまで）



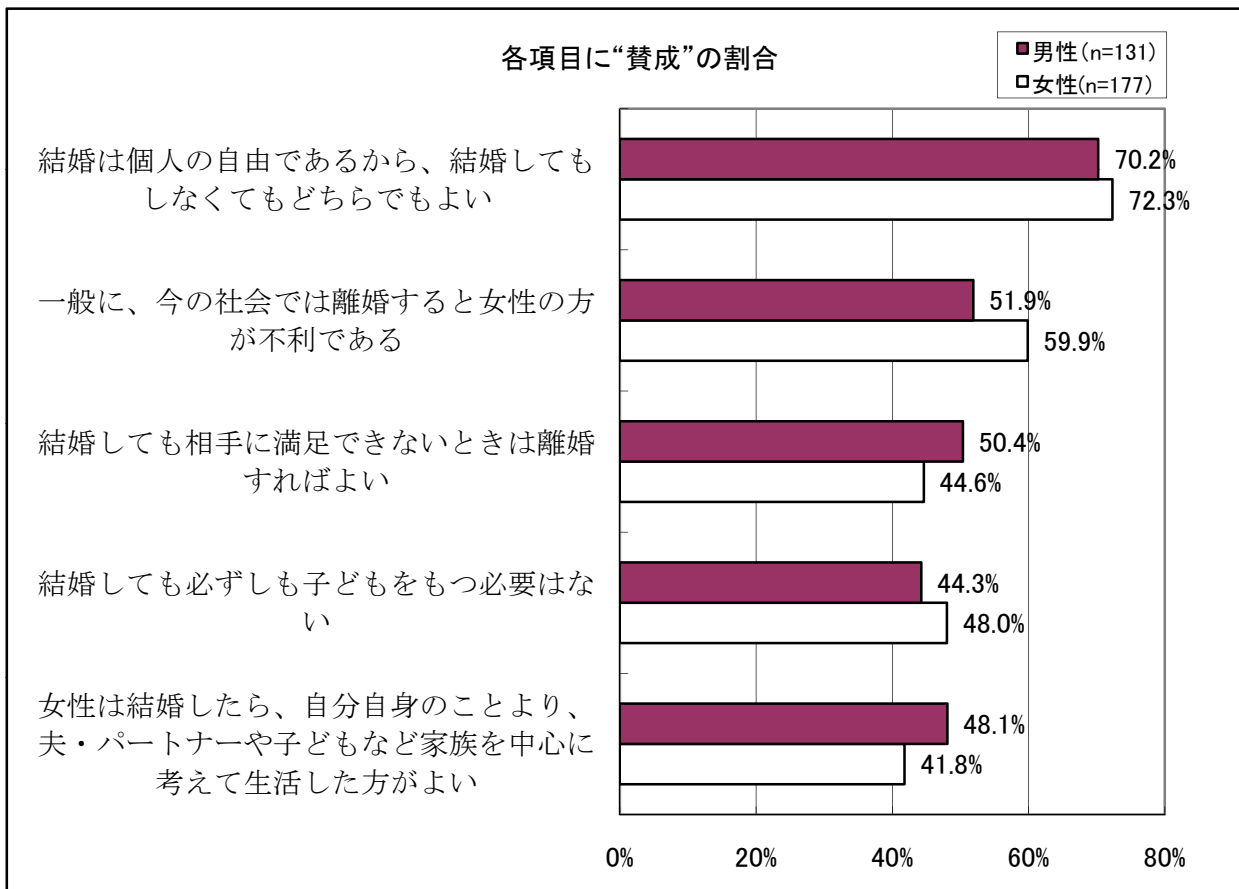
	全体 (n=82)	女性 (n=55)	男性 (n=27)
社会の仕組みが女性に不利	51.2%	43.6%	55.6%
女性議員が少ない	43.9%	41.8%	44.4%
男性の意識、理解が足りない	40.2%	43.6%	33.3%
行政機関の管理職に女性が少ない	35.4%	32.7%	40.7%
組合や地域組織のリーダーに女性が少ない	34.1%	27.3%	48.1%
女性の能力に対する偏見がある	28.0%	23.6%	29.6%
女性自身が消極的	26.8%	27.3%	25.9%
審議会や委員会に女性委員が少ない	18.3%	16.4%	22.2%
女性自身の意欲や責任感が乏しい	18.3%	14.5%	25.9%
その他	3.7%	3.6%	3.7%

前問で「あまり反映されていない」、「ほとんど反映されていない」と答えた人に、その理由を尋ねると「社会の仕組みが女性に不利」が最も多く51.2%で、次いで「女性議員が少ない」43.9%、「男性の意識、理解が足りない」が40.2%となっています。

男女別に見ると、女性では「社会の仕組みが女性に不利」が43.6%、「男性の意識、理解が足りない」が43.6%で、男性では「社会の仕組みが女性に不利」が55.6%、「組合や地域組織のリーダーに女性が少ない」が48.1%、「女性議員が少ない」が44.4%が多くなっています。

4 結婚感

問9 結婚、家庭、離婚についてあなたのご意見をお伺いします。次の中からあなたの考えに最も近いところの数字に○をつけてください。(○は1つ)



①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
賛成	47.3%	52.5%	42.7%
どちらかといえば賛成	23.2%	19.8%	27.5%
どちらかといえば反対	16.2%	15.3%	18.3%
反対	3.5%	4.0%	3.1%
わからない	6.7%	7.3%	4.6%
無回答	3.2%	1.1%	3.8%

②一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
賛成	28.3%	33.9%	21.4%
どちらかといえば賛成	27.6%	26.0%	30.5%
どちらかといえば反対	9.8%	5.6%	14.5%
反対	6.7%	4.0%	10.7%
わからない	23.2%	26.6%	19.1%
無回答	4.4%	4.0%	3.8%

③結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
賛成	21.9%	22.6%	21.4%
どちらかといえば賛成	24.8%	22.0%	29.0%
どちらかといえば反対	22.9%	23.7%	22.1%
反対	8.3%	8.5%	8.4%
わからない	16.8%	18.6%	13.7%
無回答	5.4%	4.5%	5.3%

④結婚しても必ずしも子どもをもつ必要はない

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
賛成	27.0%	31.1%	22.9%
どちらかといえば賛成	18.7%	16.9%	21.4%
どちらかといえば反対	22.9%	21.5%	25.2%
反対	13.0%	10.7%	16.8%
わからない	13.0%	15.8%	8.4%
無回答	5.4%	4.0%	5.3%

⑤女性は結婚したら、自分自身のことより、夫・パートナーや子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい

	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
賛成	9.8%	8.5%	11.5%
どちらかといえば賛成	34.6%	33.3%	36.6%
どちらかといえば反対	21.6%	22.0%	22.1%
反対	19.7%	21.5%	17.6%
わからない	9.8%	10.7%	8.4%
無回答	4.4%	4.0%	3.8%

①「結婚は個人の自由であるから、してもしなくてもどちらでもよい」

この考えに「賛成」は全体で47.3%、女性で52.5%、男性で42.7%となっています。「どちらかといえば賛成」を加えると女性では72.3%、男性で70.2%が賛成であり、女性の方が2.1ポイント高くなっています。

②「一般に、今の社会では離婚すると女性の方が不利である」

この考えに「賛成」は全体で28.3%、女性で33.9%、男性で21.4%となっています。「どちらかといえば賛成」を加えると女性で59.9%、男性で51.9%で、女性の方が8ポイント高くなっています。

③「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」

この考えに「賛成」は全体で21.9%、女性で22.6%、男性で21.4%となっています。「どちらかといえば賛成」を加えると、女性では44.6%、男性では50.4%が賛成で、男性の方が5.8ポイント高くなっています。

④「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」

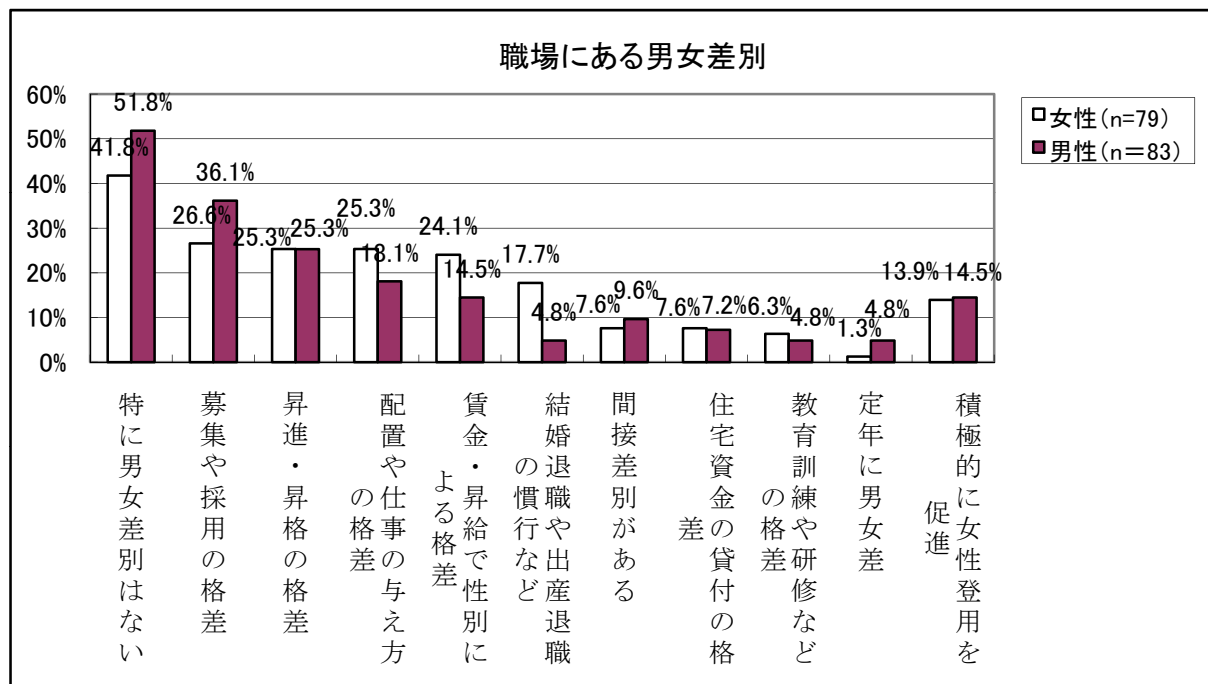
この考えに「賛成」は全体が27%、女性で31.1%、男性で22.9%となっています。「どちらかといえば賛成」を加えると、女性では48%が、男性では44.3%が賛成で、女性の方が3.7ポイント高くなっています。

⑤「女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」

この考えに「賛成」は全体で9.3%、女性で8.5%、男性で11.5%となっています。「どちらかといえば賛成」を加えると、女性では41.8%が男性では48.1%が賛成で、男性の方が6.3ポイント高くなっています。

5 職場

問10 あなたの職場では、次にあげるようなことがありますか（〇は当てはまるものすべ

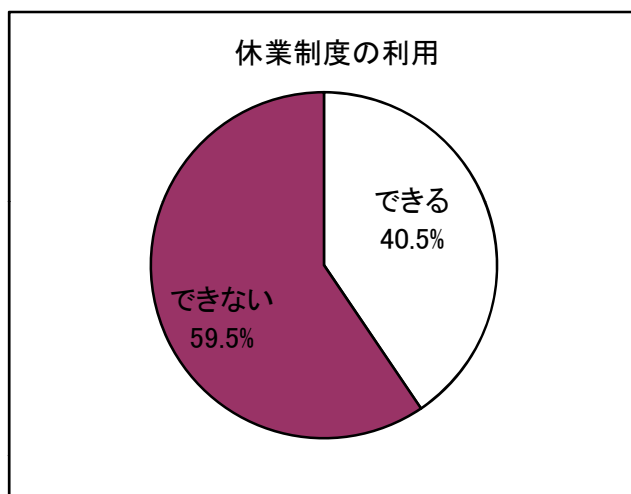


	全体 (n=163)	女性 (n=79)	男性 (n=83)
特に男女差別はない	47.2%	41.8%	51.8%
募集や採用で性別に格差がある	31.3%	26.6%	36.1%
昇進・昇格で性別による格差がある	25.2%	25.3%	25.3%
配置や仕事の与え方に性別による格差がある	21.5%	25.3%	18.1%
賃金・昇給で性別による格差がある	19.0%	24.1%	14.5%
積極的に女性登用を進めている	14.1%	13.9%	14.5%
結婚や出産退職の慣行や居づらい雰囲気がある	11.0%	17.7%	4.8%
間接差別がある	8.6%	7.6%	9.6%
住宅資金の貸付に性別による格差がある	7.4%	7.6%	7.2%
教育訓練や研修などに性別による格差がある	5.5%	6.3%	4.8%
定年に男女差がある	3.1%	1.3%	4.8%

現在、仕事についている方に職場で当てはまるようなものがあるか、聞いて見ました。「特に男女差別がない」との回答は、47.2%となっています。また、「募集や採用で格差がある」31.3%、「昇進・昇給で格差がある」25.2%、「配置や仕事の与え方に格差がある」21.5%、「賃金・昇給で性別による格差がある」19%で、「積極的に女性登用を進めている」は14.1%ありました。

「特に差別はない」との回答は男性では51.8%で、女性の41.8%に比べて10ポイントの男性の方が多くなっています。また男女ともに「募集や採用で格差がある」が最も高く男性で36.1%、女性で26.6%となっています。

問11 現在あなたに、育児や介護が必要な家族がいた場合、育児や介護のための法律で定められた休業制度を利用できますか。(〇は1つ)

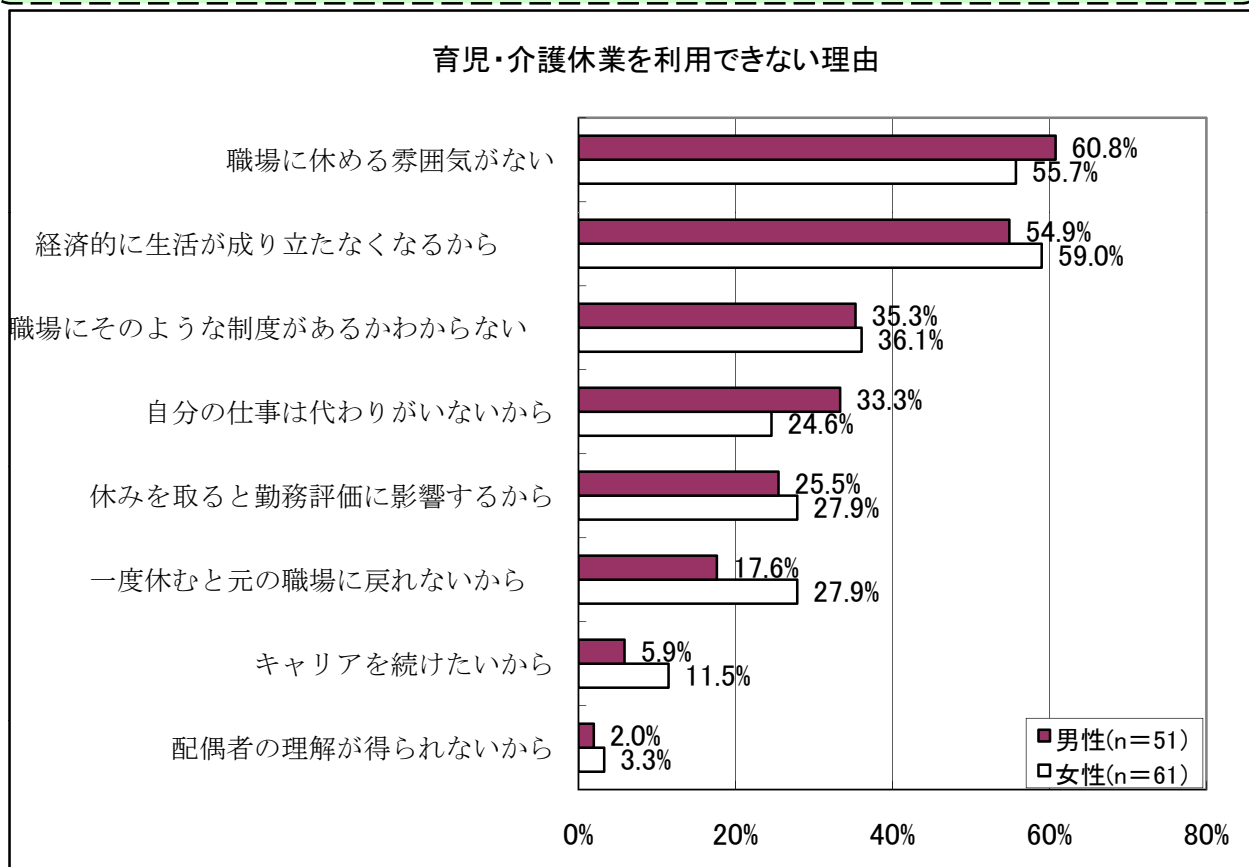


	全体 (n=163)	女性 (n=79)	男性 (n=83)
できる	40.5%	35.1%	45.7%
できない	59.5%	64.9%	54.3%

現在仕事をしている方に、育児休業や介護休業制度が利用できるか聞いてみたところ、全体で40.5%が「できる」、59.9%が「できない」との回答となっています。「できる」との回答は男性の方が高く45.7%、女性は35.1%となっています。

前問で「2 できない」と答えた方

問11-1 長期の休業制度を利用することができないのは、どのような理由からでしょうか。(〇は当てはまるものすべて)



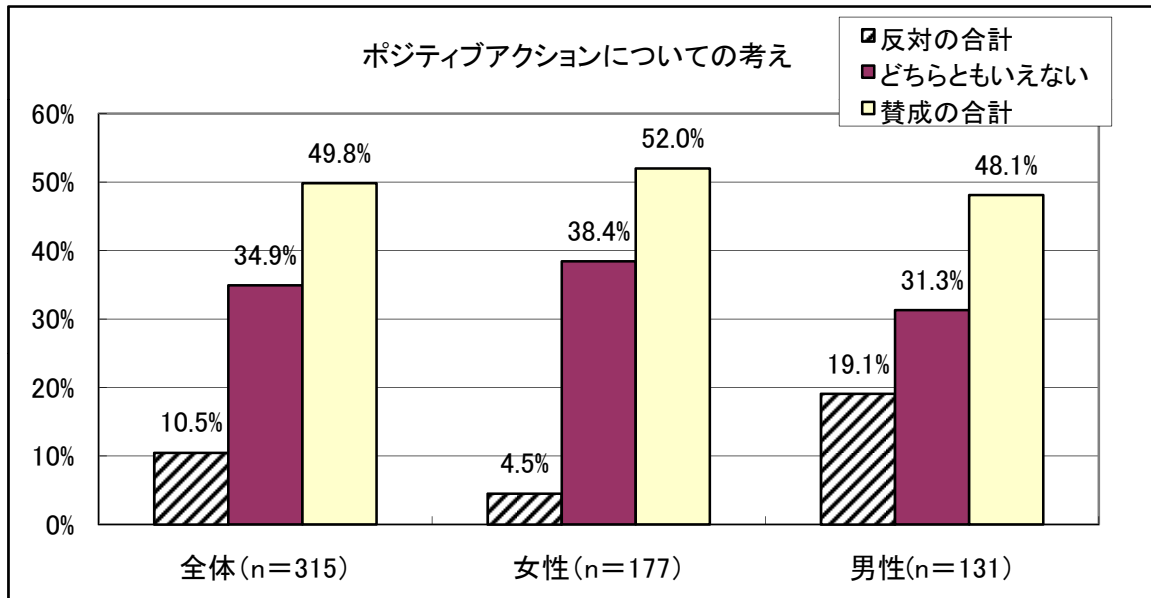
	全体 (n=113)	女性 (n=61)	男性 (n=51)
職場に休める雰囲気がない	58.4%	55.7%	60.8%
経済的に生活が成り立たなくなるから	56.6%	59.0%	54.9%
職場にそのような制度があるかわからない	35.4%	36.1%	35.3%
自分の仕事は代わりがないから	28.3%	24.6%	33.3%
休みを取ると勤務評価に影響するから	26.5%	27.9%	25.5%
一度休むと元の職場に戻れないから	23.0%	27.9%	17.6%
キャリアを続けたいから	8.8%	11.5%	5.9%
配偶者の理解が得られないから	2.7%	3.3%	2.0%
その他	6.2%	1.6%	2.0%

前問で“長期の休業制度を利用できない”と回答した方にその理由を尋ねると「職場に休める雰囲気がない」が最も高く58.4%、次いで「経済的に生活が成り立たない」が56.6%、「職場にそのような制度があるかわからない」が35.4%となっています。

男女別に見ると、女性では「経済的に生活が成り立たなくなるから」が59%、男性では「職場に休める雰囲気がない」が60.8%が最も高くとなっています。また男女差の大きな回答は「一度休むと元の職場に戻れない」が男性で17.6%に対して、女性は27.9%と10.3ポイントの、また「自分の仕事は代わりがないから」が男性は33.3%で、女性の24.6%に比べて8.7ポイントの開きがありました。

6 人権

問12 「男女の不平等を是正するため、女性があまり進出していない分野で一時的に女性の優先枠を設けるなどして男女の実質的な機会の均等を確保すべきである」（＝ポジティブアクション）という考え方があります。この考え方についてどのように思いますか（○は1つ）



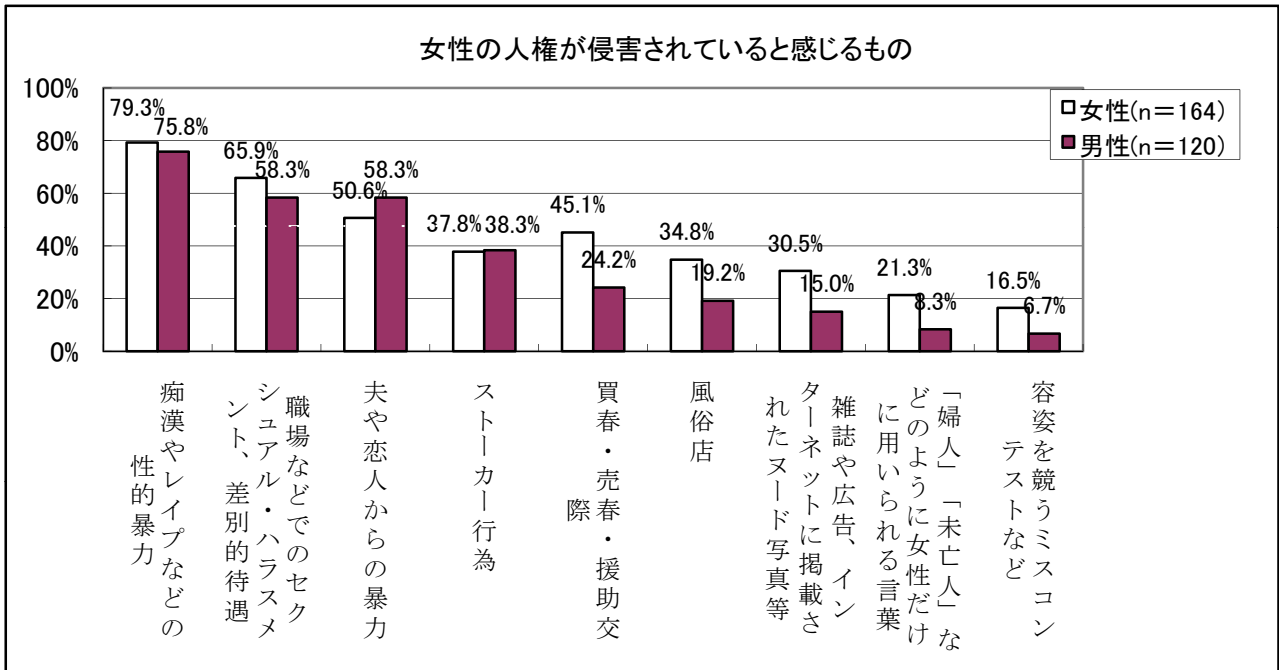
	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
どちらともいえない	34.9%	38.4%	31.3%
賛成	20.3%	20.3%	21.4%
どちらかといえば賛成	29.5%	31.6%	26.7%
どちらかといえば反対	7.0%	4.0%	11.5%
反対	3.5%	0.6%	7.6%
無回答	4.8%	5.1%	1.5%

男女平等を進めるために、女性のあまりいない分野で積極的に女性を登用するポジティブアクションについて、「どちらともいえない」は34.9%、「賛成」は20.3%、「どちらかといえば賛成」は29.5%となっています。また「反対」は3.5%、「どちらかといえば反対」は7%となっています。

「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合算すると49.8%が賛成であり、「反対」と「どちらかといえば反対」の合算10.5%に比べ、賛成と考える人が多くなっています。

男女別では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合算した賛成の割合は、女性で51.9%、男性は48.1%となっています。また「反対」と「どちらかといえば反対」の合算の割合は、女性で4.6%、男性で19.1%であり、ポジティブアクションについての考えについて賛成と回答した割合は女性の方が多くなっています。

問13 あなたが、「女性の人権が侵害されている」と感じることは何ですか。（○は当てはまるものすべて）



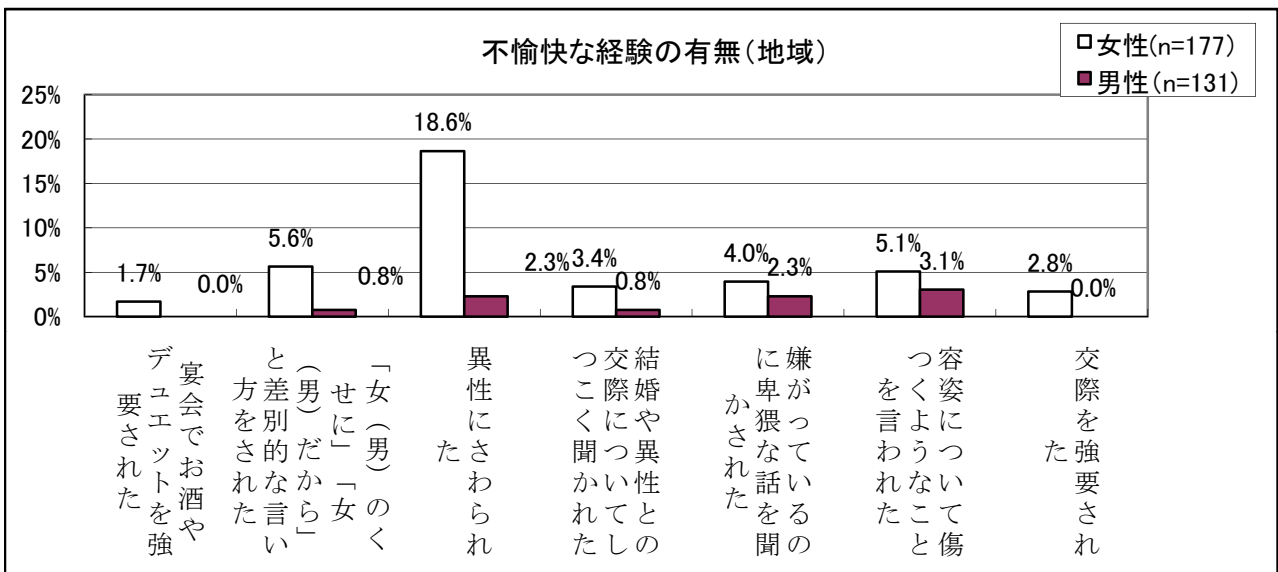
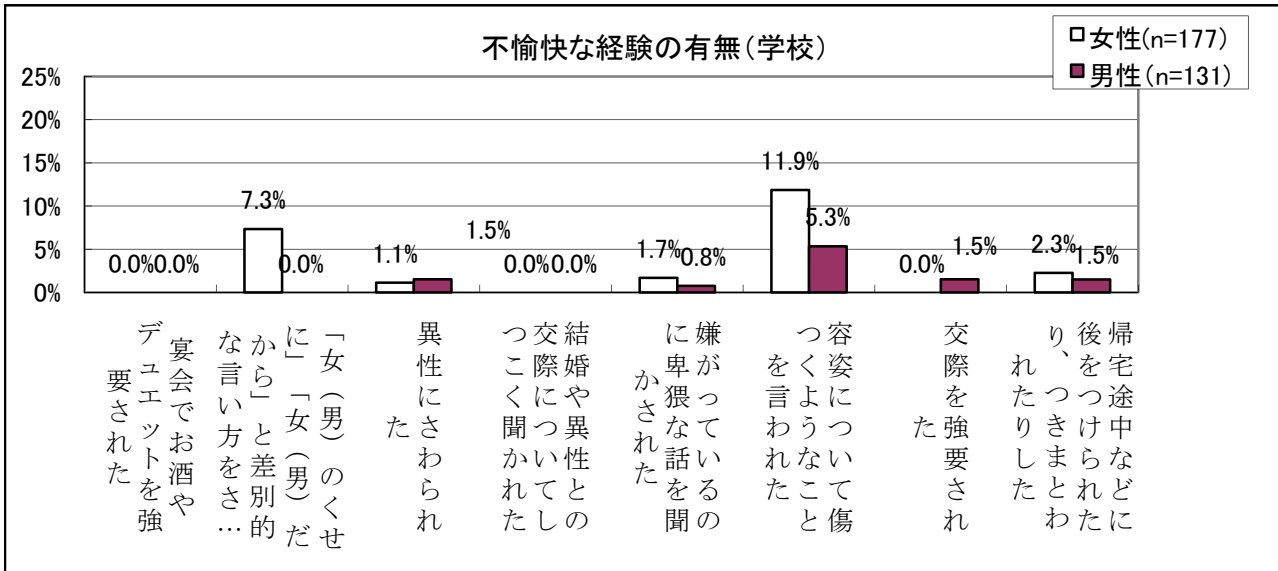
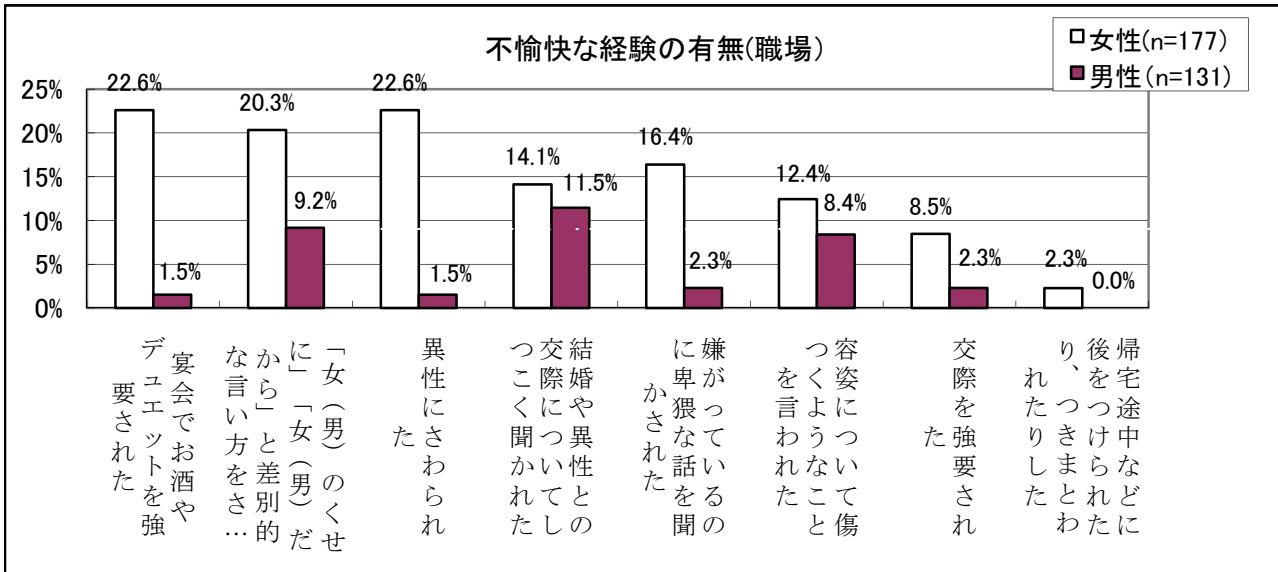
	全体 (n=287)	女性 (n=164)	男性 (n=120)
痴漢やレイプなどの性的暴力	77.7%	79.3%	75.8%
職場などでのセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇	62.4%	65.9%	58.3%
夫や恋人からの暴力	54.4%	50.6%	58.3%
ストーカー行為	38.0%	37.8%	38.3%
買春・売春・援助交際	36.2%	45.1%	24.2%
風俗店	28.2%	34.8%	19.2%
雑誌や広告、インターネットに掲載されたヌード写真等	24.0%	30.5%	15.0%
「婦人」「未亡人」などのように女性だけに用いられる言葉	15.7%	21.3%	8.3%
容姿を競うミスコンテストなど	12.5%	16.5%	6.7%
その他	3.5%	2.4%	4.2%

女性の人権が侵害されていると感じることについて、最も多かった回答は「痴漢やレイプなどの性的暴力」で77.7%、次いで「職場などでのセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇」が62.4%、「夫や恋人からの暴力」54.4%、「ストーカー行為」38%、「買春・売春・援助交際」36.2%となっています。

男女別では、「痴漢やレイプなどの性的暴力」が男女ともに最も高く、女性で79.8%、男性で75.8%となっています。次いで「職場などでのセクシュアル・ハラスメント、差別的待遇」（女性65.9%、男性58.3%）、「夫や恋人からの暴力」（女性50.6%、男性58.3%）が上位を占めています。

また「買春・売春・援助交際」では女性は45.1%と高くなっていますが、男性は24.2%にとどまり、20.9ポイントの開きがありました。同様に「風俗店」は女性34.8%、男性19.6%で15.6ポイントの、「雑誌や広告、インターネットに掲載されたヌード写真等」は女性で30.5%、男性15%で15.5ポイントの開きがあり、女性の方が多くの事柄を人権が侵害されていると回答しています。

問14 あなたはこれまでに、職場・学校・地域で次のような不愉快な経験をしたことがありますか※（注） 複数回答で集計



	職 場			学 校			地 域		
	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
宴会でお酒やデュエットを強要された	16.8%	22.6%	1.5%	9.2%	11.9%	5.3%	12.4%	17.5%	5.3%
「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた	15.2%	20.3%	9.2%	7.3%	7.3%	0.0%	11.4%	18.6%	2.3%
異性にさわられた	13.3%	22.6%	1.5%	1.6%	1.1%	1.5%	4.4%	5.6%	0.8%
結婚や異性との交際についてしつこく聞かれた	12.7%	14.1%	11.5%	0.0%	0.0%	0.0%	4.1%	5.1%	3.1%
嫌がっているのに卑猥な話を聞かされた	10.5%	16.4%	2.3%	0.6%	0.0%	1.5%	3.2%	4.0%	2.3%
容姿について傷つくようなことを言われた	10.5%	12.4%	8.4%	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	3.4%	0.8%
交際を強要された	5.7%	8.5%	2.3%	1.3%	1.7%	0.8%	1.6%	2.8%	0.0%
帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした	1.3%	2.3%	0.0%	1.9%	2.3%	1.5%	1.3%	1.7%	0.0%

職場、学校、地域のそれぞれの領域で不愉快な経験があるか尋ねると、全般的に職場の領域での経験が多く、またその経験は男性よりも女性の方が多くなっています。

職場

職場では「宴会でお酒やデュエットを強要された」が16.8%で、次いで「“女のくせに” “男だから”と差別的な言い方をされた」が15.2%となっています。特に女性では「宴会でお酒やデュエットを強要された」と「異性にさわられた」が22.6%、「“女のくせに” “男だから”と差別的な言い方をされた」が20.3%と高くなっています。

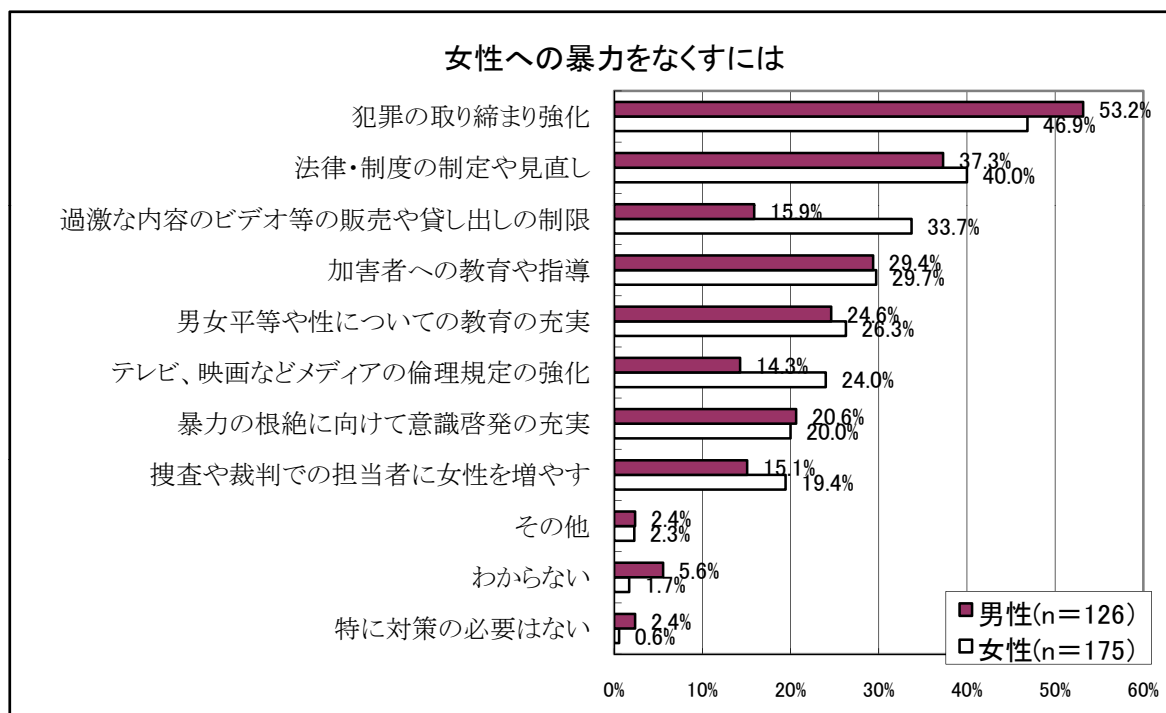
学校

学校では「容姿について傷つくようなことを言われた」が9.2%、「“女のくせに” “男だから”と差別的な言い方をされた」が7.3%と高くなっています。特に女性では「容姿について傷つくようなことを言われた」が11.9%で、男性の5.3%に比べて倍以上の割合となっています。

地域

地域では「帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした」が最も多く12.4%となっています。女性では「異性にさわられた」が18.6%、「帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした」が17.5%と高くなっています。

問15 ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）など、女性の人権に対する関心が高まっていますが、女性に対する暴力をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。（〇は3つ以内）



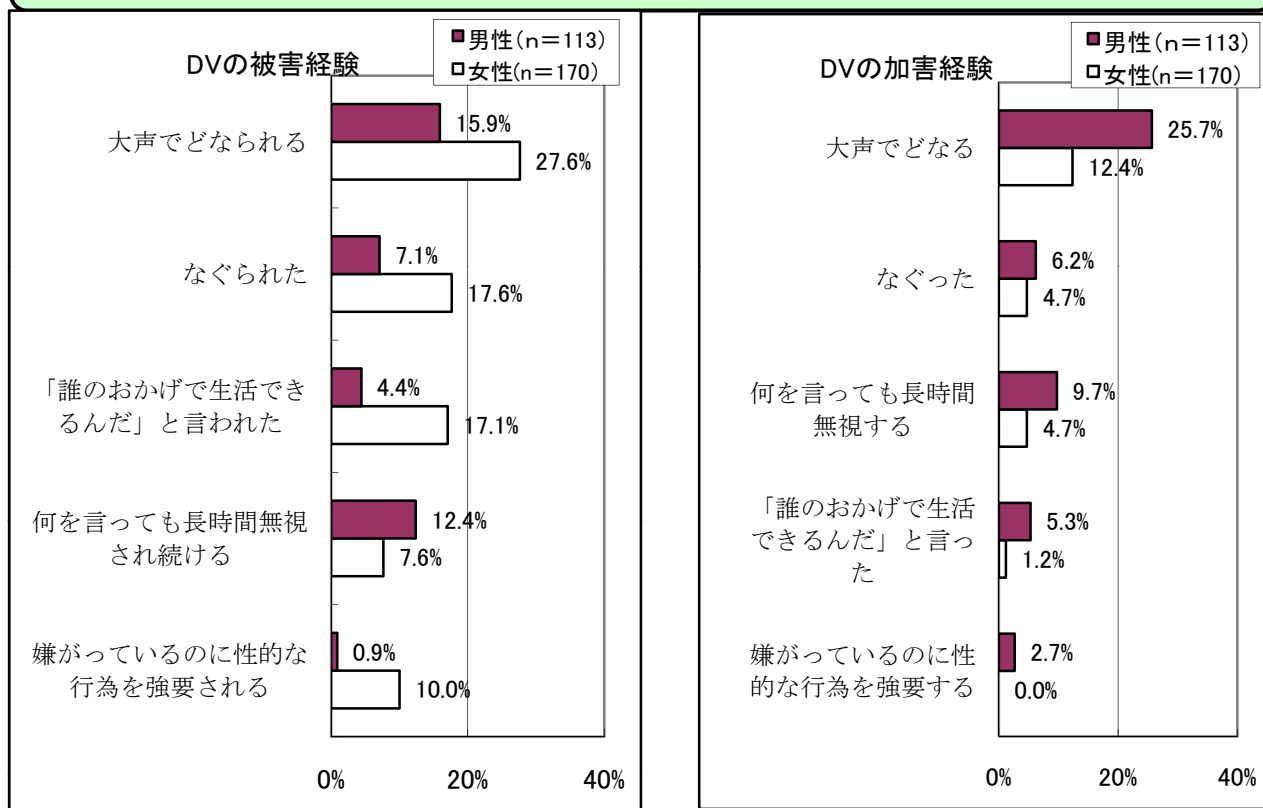
	全体 (n=315)	女性 (n=175)	男性 (n=126)
被害女性のための相談窓口や避難施設の整備	59.2%	62.9%	53.2%
犯罪の取り締まり強化	49.7%	46.9%	53.2%
法律・制度の制定や見直し	39.1%	40.0%	37.3%
加害者への教育や指導	29.6%	29.7%	29.4%
過激な内容のビデオ等の販売や貸し出しの制限	26.0%	33.7%	15.9%
男女平等や性についての教育の充実	25.3%	26.3%	24.6%
暴力の根絶に向けて意識啓発の充実	20.1%	20.0%	20.6%
テレビ、映画などメディアの倫理規定の強化	19.7%	24.0%	14.3%
捜査や裁判での担当者に女性を増やす	18.1%	19.4%	15.1%
その他	2.3%	2.3%	2.4%
わからない	3.3%	1.7%	5.6%
特に対策の必要はない	1.3%	0.6%	2.4%

女性に対する暴力をなくすために必要なことについて、最も多いものは「被害女性のための相談窓口や避難施設の整備」で59.2%、ついで「犯罪の取り締まり強化」が49.7%、「法律・制度の制定や見直し」が39.1%となっています。

男女別では女性で「被害女性のための相談窓口や避難施設の整備」が62.9%と男性の53.3%に比べて9.7ポイント高くなっています。また男性では「被害女性のための相談窓口や避難施設の整備」と「犯罪の取締りの強化」が53.2%となっています。

また「特に対策の必要はない」は女性で0.6%、男性で2.4%となっています。

問16 あなたは、これまでに配偶者やパートナー、恋人との間で、次のようなことをしたり、されたりしたことがありますか。(〇は当てはまるものすべて)



【DV経験の有無】

	全体 (n=286)	女性 (n=170)	男性 (n=113)
そのような経験はない	57.7%	59.4%	55.8%

【被害経験】

被害経験	全体 (n=286)	女性 (n=170)	男性 (n=113)
大声でどなられる	23.4%	27.6%	15.9%
なぐられた	13.3%	17.6%	7.1%
「誰のおかげで生活できるんだ」と言われた	12.2%	17.1%	4.4%
何を言っても長時間無視され続ける	9.4%	7.6%	12.4%
嫌がっているのに性的な行為を強要される	6.3%	10.0%	0.9%

【加害経験】

加害経験	全体 (n=286)	女性 (n=170)	男性 (n=113)
大声でどなる	17.5%	12.4%	25.7%
何を言っても長時間無視する	6.6%	4.7%	9.7%
なぐった	5.2%	4.7%	6.2%
「誰のおかげで生活できるんだ」と言った	2.8%	1.2%	5.3%
嫌がっているのに性的な行為を強要する	1.0%	0.0%	2.7%

ドメスティック・バイオレンスについて「そのような経験はない」は、女性で59.4%、男性で55.8%となっています。

【被害経験】

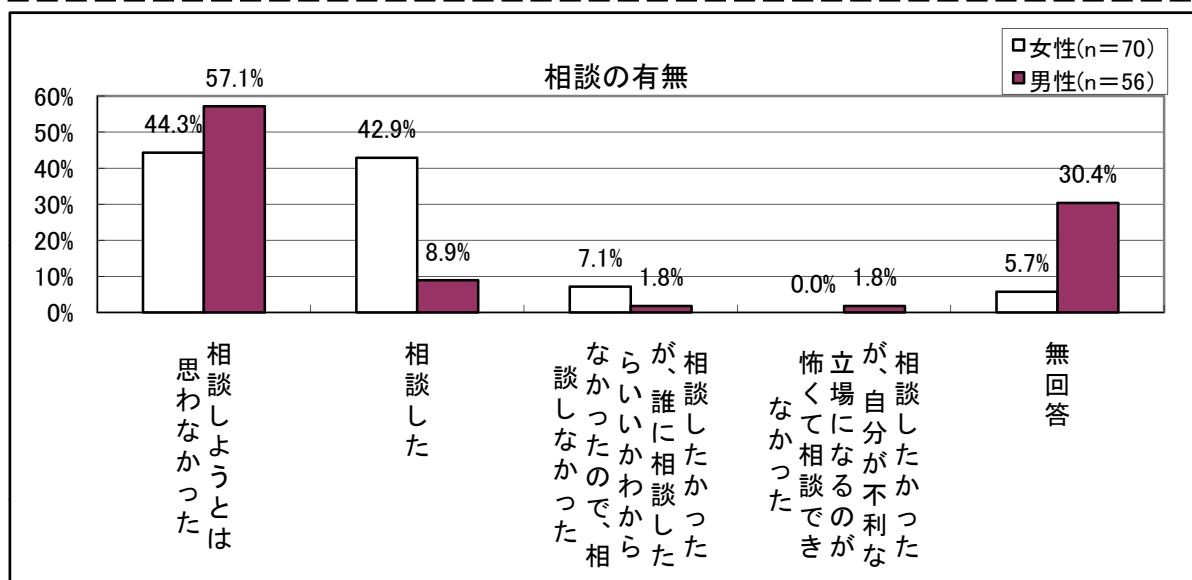
ドメスティック・バイオレンスの被害経験について、「大声でどなられた」ことが一番

多く、全体23.4%、女性27.6%、男性15.9%となっています。また「なぐられた」は全体で13.3%、女性17.6%、男性7.1%で、「何を言っても長時間無視され続ける」は全体9.4%、女性7.6%、男性12.4%で、「誰のおかげで生活できるんだ、と言われた」は全体12.2%、女性17.1%、男性4.4%で、「嫌がっているのに性的な行為を強要された」は全体6.3%、女性10%、男性0.9%となっています。

【加害経験】

ドメスティック・バイオレンスの加害経験について、「大声でどなる」が一番多く、全体で17.5%、女性で12.4%、男性では25.7%となっています。また「何を言っても長時間無視する」は全体9.4%、女性4.7%、男性9.7%で、「なぐった」は全体5.2%、女性4.7%、男性6.2%で、「誰のおかげで生活できるんだ、と言った」は全体2.8%、女性1.2%、男性5.3%、「嫌がっているのに性的な行為を強要する」は全体1%、男性27.7%、女性0%となっています。

問16-1 配偶者やパートナー、恋人にそのような行動をとられたことを誰かに相談しましたか。(〇は1つ)



	全体 (n=128)	女性 (n=70)	男性 (n=56)
相談しようとは思わなかった	50.8%	44.3%	57.1%
相談した	27.3%	42.9%	8.9%
相談したかったが、誰に相談したらいいかわからなかった ので、相談しなかった	4.7%	7.1%	1.8%
相談したかったが、自分が不利な立場になるのが怖くて相談 できなかった	0.8%	0.0%	1.8%
無回答	16.4%	5.7%	30.4%

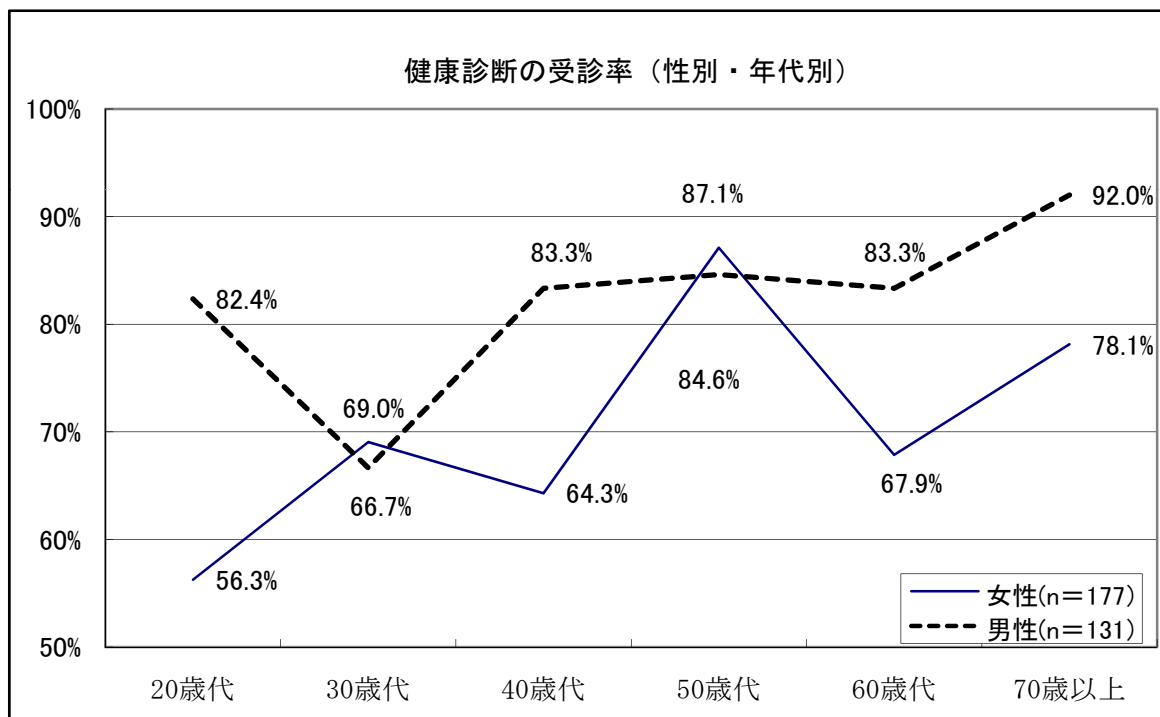
前問で被害経験のある方が相談したか、については「相談しようと思わなかった」が最も多く全体で50.8%で、「相談した」は27.3%、「相談したかったが、誰に相談したらいいかわからなかった」は4.7%となっています。

男女別では「相談しようと思わなかった」が男性に多く、57.1%、女性では44.3%で、反面「相談した」が女性では42.9%、男性では8.9%となっています。

ドメスティック・バイオレンスの認識は広まっているものの、相談についての意識は低く、その利用も、女性より男性は利用していない状況がわかります。

7 健康

問17 あなたは、この1年間に健康診断や検診を受けましたか。あてはまるところに○をつけてください（○は1つ）



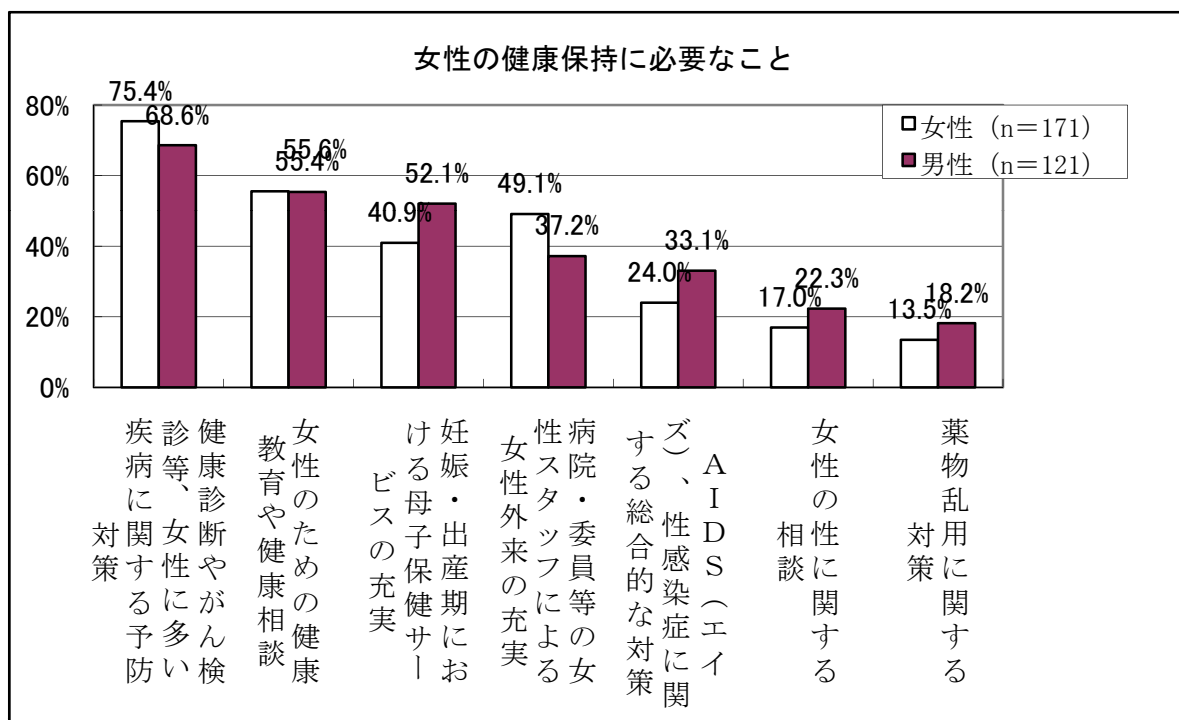
	全体 (n=315)	女性 (n=177)	男性 (n=131)
受けた	75.2%	71.8%	82.4%
受けなかった	21.9%	26.6%	16.8%
無回答	2.9%	1.7%	0.8%

	女性 (n=177)	男性 (n=131)
全体	71.8%	82.4%
20歳代	56.3%	82.4%
30歳代	69.0%	66.7%
40歳代	64.3%	83.3%
50歳代	87.1%	84.6%
60歳代	67.9%	83.3%
70歳以上	78.1%	92.0%

この1年間に健康診断などを受けた人は、全体で75.2%となっています。女性では71.8%で、男性の82.4%に比べると10.6ポイント低い結果となりました。

性別・年代別に受診率では、一番低いのは女性の20歳代で56.3%、次いで女性の40歳代で64.3%となっています。また60歳代、70歳代の女性は、それぞれ67.9%と78.1%で、男性の60歳代83.3%や70歳代以上の92%よりも低い結果となりました。また受診率の高い年代は男性の70歳以上で92%、女性では50歳代の87.1%となっています。

問18 あなたは、女性の健康を守るために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は当てはまるものすべて)



	全体 (n=295)	女性 (n=171)	男性 (n=121)
健康診断やがん検診等、女性に多い疾病に関する予防対策	72.5%	75.4%	68.6%
女性のための健康教育や健康相談	55.3%	55.6%	55.4%
妊娠・出産期における母子保健サービスの充実	45.4%	40.9%	52.1%
病院・医院等の女性スタッフによる女性外来の充実	44.4%	49.1%	37.2%
AIDS (エイズ)、性感染症に関する総合的な対策	27.5%	24.0%	33.1%
女性の性に関する相談	19.3%	17.0%	22.3%
薬物乱用に関する対策	15.3%	13.5%	18.2%
その他	3.4%	2.9%	4.1%

女性の健康を守るために必要なことは「健康診断やがん検診等、女性に多い疾病に関する予防対策」72.5%、ついで「女性のための健康教育や健康相談」55.3%、「妊娠・出産期における母子保健サービスの充実」45.4%「病院・医院等の女性スタッフによる女性外来の充実」44.4%となっています。

また「病院・医院等の女性スタッフによる女性外来の充実」は男性の37.2%に比べ女性は49.1%と11.9ポイント高く、男性では「妊娠・出産期における母子保健サービスの充実」が女性の40.9%に比べて52.1%と11.2ポイント高くなっています。

自由意見

子育て支援

- ・ 学童保育の充実を望む（女性・30歳代）
- ・ 保育所や認可の私立保育園、家庭保育室を増やして欲しい。市立保育園には入所できず、無認可の託児所は高く、結局「女性は母になったら家の中にいろ」といわれているよう。もっと子どもを見てくれる場所を増やして欲しい（女性・20歳代）
- ・ 妊娠・出産・育児等で職場を離れるとキャリアアップの妨げになることは確か。仕事か子育てか選択を迫られる。私自身は子育てを選択し、喜びを感じているが、子育てが一段落して再び仕事をしたいと思ったときに、仕事が見つかるかどうか、行政のサポートを期待している。性別による差別や格差を感じたことはない。たいがいのことは本人のやる気や意思、能力で決まると感じる（女性・30歳代）
- ・ 子どもを出産後も仕事を続けられるか不安があり、出産を考えられない。保育所等を充実して欲しい（女性・30歳代）
- ・ 家庭の中で乳幼児を育てたいと思う女性は多いが、生活向上のために働かざるを得ない。出産後、保健師が家庭訪問するが、その際、相談窓口や保育園の紹介など家庭をバックアップする小冊子を手渡しするのがよい。家庭円満や地域社会の関わりを感じて生活が安定すると思う。子どもを産んでも安心して育てられる環境づくりに市が率先して取り組んでもらえることを期待している（女性・40歳代）
- ・ 育児休暇を取得し復職した。周囲の理解があり働きやすい職場で感謝している。一方で理解が得られずに、職場にいるのが辛いという話もよく。特に女性に風当たりが強かったりする。男女共同参画は男性も女性もどちらとも協力と理解が必要。また乳児医療費の公費負担の充実を望む（女性・30歳代）
- ・ 保育園や幼稚園、学童保育が利用しにくいと聞き、出産を考えてしまう。男性と同じように働くには、環境を整えて欲しい（女性・30歳代）
- ・ 保育園や幼稚園の設備・制度が不十分（女性・20歳代）
- ・ 育児・介護休業を取りにくい理由のひとつに、ほかの職員と気まづくなることもある（女性・20歳代）
- ・ 出産直後から幼稚園前の子どもを持つ女性は、自由時間が少なくなる。蕨市も子育て支援は充実している方だが、リフレッシュ休暇があればよいと思う（女性・40歳代）

職場・企業

- ・ 第2子を出産を機に会社を退職した。それは第1子を出産後残業が出来ないことを理由に配置転換され、第2子の妊娠がわかると「仕事をしている人間としての自覚が足りない」ようなことを言われて、会社にいられなくなったので。また0歳児の保育や延長保育の充実とまた男女平等教育の推進を望む（女性・30歳代）
- ・ 以前仕事をしていたところは女性にも責任のある仕事を与え、男女差別はなかった。しかし一度主婦になると男性と同じように働くためには難しい問題がある。家事や育児は女性の仕事と教えられて育った者には、なかなか変えることは出来ない。子どものうちから男子でも料理などの家事を教えていけば差別はなくなる。女性も甘えた気持ちを持っている人が多いので意識改革が必要（女性・40歳代）
- ・ 採用試験での男性優遇、サラリーマンの妻（専業主婦）の年金控除や税制面での上限つきの働き方をやめるべき。産休や育児休業などあっても使えない制度は意味がない。非正規雇用の現在、制度は使えない（女性・40歳代）
- ・ 妻が妊娠したとき、当時勤務していた職場の上司から数々の嫌がらせを受けた。育児休業終了後職場復帰を考えていたが、恐怖で断念した。世間にはこのよう職場が少なからず存

在している。制度があっても前例がないなどの理由で、妊娠出産後の女性の職場復帰は容易ではない。復帰を妨げるような行為に対し、罰則の強化は必須（男性・30歳代）

- ・ 企業が努力して男性の働き方を変えて欲しい。夫は毎日早朝から深夜まで働き、土日も休めず出勤、専業主婦である私が育児、PTA、子ども会、町会、子どもの習い事の送迎などを引き受け、負担が重い。また夫の健康状態も不安。朝夕食は家族全員で食べて、土日は家族で子ども会や町会行事に参加するというのが理想。社会全体が変わっていくことが重要（女性・40歳代）
- ・ 男女雇用機会均等法はよい法律であるが、男性を卑下するものと解釈している女性がいる（男性・20歳代）
- ・ 職場の中間管理職が差別的（女性・50歳代）
- ・ 派遣で働いている。育児・介護休業制度もない（女性・40歳代）
- ・ すでに女性の社会進出、職場の活躍はすばらしい。ただし育児休業中は家庭内に入り、子育てが終わった後、また社会に貢献して欲しい（男性・70歳代）

人権侵害

- ・ 子どもが出来ずに女性同士からの蔑視、心無い言葉、産婦人科医師からのドクハラ等で苦しんでいる。DVは夫の理解・自身の成長を経て、その体験をセミナー等で話せるまでになった。今でも同じ悩みに苦しんでいる人の役に立ち、私の体験が市に貢献できるなら、実名でお話します。（女性・30歳代）
- ・ 生命保険の命の値段が男性の方が高い。これは女性の人権が侵害である（女性・50歳代）
- ・ 駅前に風俗店があり不愉快。学校や住宅が多いのに、人身売買施設が平然と商売できる法律があるのは、文明国のすることではない。結婚や離婚で名字の変更や戸籍の表示も女性の人権侵害（女性・20歳代）

- ・ 性の売買は立派な人権侵害（女性・40歳代）
- ・ 男女平等の大義名分にまぎれて育児放棄など責任感のない女性が多い。問15の「女性の暴力をなくすためには」の選択肢に「テレビや映画などメディアの倫理規定の強化」があるが、ストレスや性欲のはけ口を奪う抑制や制限は更なる犯罪につながる（男性・20歳代）

ドメスティック・バイオレンス

- ・ ドメスティック・バイオレンス（以下「DV」）の被害を弁護士に相談した（女性・40歳代）
- ・ 警察に相談した（男性・20歳代）
- ・ 相手が気が短いのでDVを行う（女性・70歳代）
- ・ 相手が暴力を振るう理由は、病気だと思った（女性・70歳代）
- ・ 公的窓口など相談しやすい場所の周知を（男性・50歳代）
- ・ DVの防止には、子どもの頃からの教育が必要（男性・30歳代）
- ・ 女性への暴力は根絶したい（男性・30歳代）
- ・ 相手を悪く見られなくなかったので、相談できなかった（女性・20歳代）
- ・ 女性の暴力をなくすには、実力主義に徹底すること。また問7と問10に「女性は庶務、男性は企画」の例示があったが、その逆である（男性・20歳代）
- ・ 女性の暴力をなくすには、罰則規定の強化、特に性犯罪においての罰則は軽すぎるので死刑なども積極的に適用すべきである（女性・30歳代）
- ・ 女性が自立できる世の中がよい。男性に従属する意識がなくなり、対等に生活が可能となりDVから決別できる。女性が自立できるような方策を取るべき（男性・50歳代）

家族・夫婦

- ・ 男性も結婚したら自分自身のことよりも妻や子どものことを中心に考えて生活したほうが

よい（女性・20歳代）

- ・ 来年あたりから働こうと考えているが、夫は帰りも遅く家事がおろそかにならないか不安。少しでも早く帰って来て欲しいというのが願い（女性・30歳代）
- ・ フルタイムで働いているが、子育てや家事はすべて私の責任で夫の協力はなし。女性の福利厚生を充実させて欲しい（女性・40歳代）
- ・ 夫は家事を一切しない、会社では女性は何年働いてもパートでしかない。このような状況で男女平等を言われても実感はない（女性・40歳代）
- ・ 姑の介護や老親との生活スタイルの違いなどで嫁の居場所がない。安心して希望の持てる女性の地位向上が必要。地方と都会との地域差もある（女性・50歳代）

教育・子どもへ

- ・ 小さい頃から男子にも家庭の仕事をなんでもさせ、女性に対する尊敬の念を自然に身につけさせることがよい（男性・60歳代）
- ・ 日本の歴史から見て男は男、女は女の言葉、所作のしつけ方が必要と思う（男性・70歳代）
- ・ 男、女、の概念よりも、その人の個性を重視すべき。メディアや行政の啓発、学校教育の充実が必要（女性・30歳代）
- ・ 妊娠・出産という男性には出来ないことをもっと尊厳の目で受け止めてもらえたら男性優位の社会は変わっていくであろう。未来の大人になる子どもたちにそれを教えることは、男女平等、男女共同参画の発展、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪の抑止につながっていくのではないか（未記入）

男女平等・男女共同参画

- ・ 男女平等は無理、女性がいくら働いても同じ給料はもらえない、また女性の気配りは男性にはない（女性・50歳代）

- ・ 男女平等と小学校のときに聞いたと思う。今までは特に意識したことはない。しかし皆に優しく、と心がけている（男性・40歳代）
- ・ 男女平等というが、女性は男性の下に見られがち。どんなに頑張っても収入は男性のようにいかず、離婚し子どもを引き取り学校行事などで休めば収入は減り、父親は知らんぷり。女性だけが我慢し、男性の方が得をするようになっている。女性が一人でも安心して暮らせる社会にして欲しい（女性・50歳代）
- ・ 私たちの世代は男子厨房に入らず、女性は男性を立て、従う時代であった。若い人たちはよく協力して生活している。お互いに尊敬あい、協力して新しい時代を築いていく若い人たちに声援を送る（女性・70歳以上）
- ・ 近所の人には自分の気に入った人としか話をしない。自己主義であり男女平等とはいえない（女性・70歳以上）
- ・ 子どもを出産できるのは女性。お互いの得意分野で社会活動をすればよい。男女が協力しあって、よりよい環境づくりを望む（女性・20歳代）
- ・ 男女共同参画は国政で（男性・50歳代）
- ・ 男女平等は、男女同じ、というよりも個人の能力や適正で判断したり、されたりする社会が理想（女性・20歳代）
- ・ 男性、女性の体の作り方が違う「平等」というよりもお互いの違いを認めあい、それぞれが生活しやすい社会を作ればよい（女性・20歳代）
- ・ 平等とは何をさすのか、難しい。男性間にも差別はある。罰則のある法律を作って実行できるように（男性・50歳代）
- ・ わかりやすい積極的な社会活動が必要（男性・20歳代）
- ・ 優秀でもないのに、女性というだけで持ち上げられる（男性・40歳代）
- ・ 男女平等、人間としての平等はたいせつ。しかし、体力の違い、体の違いを考え、女性が

仕事をするのが当たり前の現代、何がたいせつか考える必要がある（女性・50歳代）

- ・ 男女平等には基本的には賛成だが、能力が追いつかない女性、自信のない女性もいる。それぞれがそれぞれの能力を発揮できる社会になって欲しい（女性・30歳代）
- ・ 男女平等は必要なし。女性は都合により男女平等といい、悪くなると男性に頼る傾向がある。男女平等は廃止し、格差をつけるべき（男性・40歳代）
- ・ 広報やニュースを見ているがわからないことが多く、また男女共同参画の場もない（女性・70歳以上）
- ・ 若い世代には男女平等は浸透している。古い慣習のあるお役所仕事のなところはまだ女性は弱い（男性・20歳代）
- ・ 会長職に女性が少ない理由は、面倒なことを引き受けてくれるやさしい男性が多いから（女性・60歳代）

行政・施策

- ・ 私が受けた教育は男女平等ではなかった。蕨市男女共同参画パートナーシップ条例について広報を充実させて普及啓発に努めて欲しい（女性・40歳代）（女性・20歳代）
- ・ 男女共同参画の事業着手をうれしく思う。基本理念、施策、行動計画等の早期取り組みと市民への意識啓発強化を望む（男性・70歳代）
- ・ 性別や年齢に関わらず、自由に平等に平和に暮らすことの出来る社会を創ることが市民と行政の役目。条例をもっと積極的に広報するとよい（男性・40歳代）
- ・ 女性の問題は、企業の問題、家庭の問題、地域の問題、また自治体自身の問題である。自治体は自らあるべき方向を示す責任を負い、地域社会の先頭に立って取り組む必要がある。4人の娘がいるが、男女共生社会はなかなか進まない。国と地方との大きな温度差もある。着実に進めるには各自治体自身が自己改革を

進める必要がある（男性・70歳代）

- ・ 男女平等に関する法律・条令ができてものことすら知らない国民が多い。実効性を確保するにはテレビ、新聞、広報等を通じて広く周知させる必要がある（男性・60歳代）
- ・ 男女平等はゴールの見えない取り組みだが、市民全体が半歩、1歩と歩みを進めることが重要。退職した男性向けの料理教室や初めて子どもをもつパパママ向けの教室などを通じてサイド攻撃のアプローチを（男性・30歳代）

アンケート

- ・ アンケート結果をホームページ等で公開し、皆で意見交換できる場が大事（男性・30歳代）
- ・ 問4、5、9の設問は人によって考え方が違う「こうあるべきだ」というのはおかしい。男女は創りが違う。それぞれが補うから生きていかれる（女性・50歳代）
- ・ 今回の質問内容や選択肢が限られており適切でないところがあった（セクシュアル・ハラスメントとDVの間）（男性・50歳代）
- ・ 今回のアンケートで女性の立場を考える機会となった（男性・30歳代）
- ・ 男女共同参画はよいと思うが、取り組んでいただきたい重要課題がある。育児関連のアンケートなどを行って切実な意見をだして欲しい（男性・20歳代）

その他

- ・ 個人のモラルが欠けている。個人の意識の上に男女平等を考えていかなければならない（女性・50歳代）
- ・ ゴミのルールを指導して（男性・40歳代）
- ・ 女性が参画しやすい風土作りを。歳末助け合い募金の集金方法が疑問（男性・50歳代）
- ・ 女性の健康を守るには、自分の意識だと思う（女性・40歳代）
- ・ 住宅街の道路はスピードが出ないようにして欲しい（男性・30歳代）

9 回答者の属性

(1) 地区

	件数	%
錦町	49	15.8%
北町	47	15.2%
中央	85	27.4%
南町	68	21.9%
塚越	61	19.7%
無回答	5	1.6%
合計	315	100.0%

(3) 年齢層

	件数	%
20代	33	10.5%
30代	63	20.0%
40代	52	16.5%
50代	58	18.4%
60代	46	14.6%
70歳以上	59	18.7%
無回答	4	1.3%
合計	315	100.0%

(5) 同居の家族 (複数回答)

	件数	%
本人のみ	69	21.9%
配偶者	197	62.5%
子ども	136	43.2%
孫	16	5.1%
父母	27	8.6%
祖父母	3	1.0%
兄弟・姉妹	10	3.2%
その他	13	4.1%
無回答	7	2.2%
合計	315	

(2) 性別

	件数	%
女	177	56.2%
男	131	41.6%
無回答	7	2.2%
合計	315	100.0%

(4) 職業

	件数	%
会社員	118	37.5%
自営業	9	2.9%
農業	0	0.0%
自由業	5	1.6%
公務員・教員	9	2.9%
主婦(夫)	73	23.2%
学生	1	0.3%
無職	57	18.1%
その他	36	11.4%
無回答	7	2.2%
合計	315	100.0%



蕨市男女共同参画市民意識調査結果報告書

発行 平成21年1月

蕨市中央5-14-15
蕨市市民生活部市民活動推進室

〒335-8501 蕨市中央5-14-15

電話 048-433-7745

メール siminsit@city.warabi.saitama.jp